



日本のことばと文化 **中級2**

GRAMÁTICA

JAPAN FOUNDATION 
MADRID

Introducción

Fundación Japón Madrid (FJMD) se inauguró en abril de 2010 y desde entonces lleva organizando numerosas actividades y proyectos en tres campos principales: arte y cultura, estudios sobre Japón e intercambio intelectual, y enseñanza de la lengua japonesa. En lo que se refiere a esta última, sus actividades están dirigidas tanto a docentes: apoyo a la APJE (Asociación de Profesores de Japonés en España), organización de seminarios, etc.; como a alumnos, con cursos de japonés, eventos dirigidos a estudiantes, etc. Por otro lado, es una fuente de información sobre la situación actual de la enseñanza del japonés en España mediante las encuestas que realiza periódicamente; un centro de recursos educativos; y un centro de asesoramiento sobre enseñanza del japonés.

La Fundación Japón se basó en el MCER, el Marco Común Europeo de Referencia para la enseñanza de las lenguas, para definir sus propios estándares de enseñanza, conocidos como JFS (Japan Foundation Standards), como herramientas para enseñar, aprender y evaluar los resultados del aprendizaje de la lengua japonesa, que finalmente se publicaron en mayo de 2010. Al tiempo que se organizaban progresivamente clases de japonés basadas en los JFS en las 22 sedes de Fundación Japón de todo el mundo, se elaboraron los libros de texto *Marugoto nihon no kotoba to bunka* (Traducido como “La lengua y la cultura japonesas al completo” y abreviado como Marugoto), cuya edición de prueba para el nivel A1 vio la luz en mayo de 2011 (en septiembre de 2013 salió a la venta de forma oficial).

Después, a lo largo de todo un año, en colaboración con la Asociación de Profesores de Japonés en España (APJE), se elaboró un manual de gramática basado en los libros Marugoto de nivel A1 en su edición de prueba, la Marugoto Gramática A1 (Edición de prueba), a la cual seguirían los manuales basados en la edición de prueba de los libros Marugoto de nivel A2 (1) en 2013, A2 (2) en 2014, A2/B1 en 2015 y B1-1 en 2016.

Este libro es la continuación de dichos manuales, basado en el libro Marugoto nivel B1(2) en la edición definitiva, publicada en octubre de 2017. Al igual que los volúmenes anteriores, esta gramática está dirigida principalmente a los estudiantes hispanohablantes. Sin embargo, con la esperanza de que pueda ser aprovechado por nuestras sedes y otros centros de enseñanza del japonés en todo el mundo, se ha redactado tanto en español como en japonés, y se pondrá a disposición del público general en la Web en formato PDF para descargar de forma gratuita. Las autoras de la Marugoto Gramática tienen la esperanza de que este manual sea de utilidad tanto para alumnos como para profesores. En caso de que así sea, agradeceremos cualquier comentario que deseen enviarnos.

Junio de 2018

El equipo de autoras de Fundación Japón Madrid y la Asociación de Profesores de Japonés en España

MARUGOTO GRAMÁTICA B1- 2

Tabla de contenidos

ページ

トピック 1 どんな人? ¿Qué tipo de persona es?

会話する	1. N tte	飯塚先生って、よく知ってますか？	1
	2. ~tte iu ka / ~ tte iu yori (wa)	怖いっていうか、難しいっていうか、そんな話を聞いたんで…。先生っていうよりは、頼りになる先輩って雰囲気じゃないですか。	
	3. ~tokoro (ga aru)	たしかに飯塚先生って、そういう 厳しいところ があるよね。	
	4. ~tte koto da	いろいろな面がある ってこと だね。	
読んでわかる	5. ~to、~	書道の魅力を 伝えたいと 、4年前に自宅で書道教室を開く。	2
	6. ~to iu	最近では、地元の小中学校から出張授業も頼まれるようになった という 。	
	7. V-ta bakari da	教室を 始めたばかり のころは、……来たり来なかったりする生徒にとまどった という 。	
	8. V-(ra)reru	生徒たちの作品をうれしそうに紹介してくれる姿からは、優しくあたたかい人柄が 感じられた 。	

Rincón lingüístico-cultural para hispanohablantes 1:
Vocabulario para el carácter y la personalidad. La adivinación y la personalidad. Ranking del tipo de pareja ideal. 3

トピック 2 富士登山 Escalando el Monte Fuji

会話する	1. V-nai koto mo nai	1日で 登れないこともない みたいだけど。	5
	2. V-nai wake ni wa ikanai	富士山に登ったら、日本最高点まで 行かないわけにはいかない ですよね？	
	3. V-shika nai	それは、 行くしかない よね。	
	4. V no wa doo (desu ka)?	レンタカー借りて、麓の観光地を まわるのはどう？	
読んでわかる	5. ~ni chigai nai	新鮮な空気を吸い込めば、身も心もリフレッシュ できるに違いない 。	6
	6. V hoka	夏季は、サマーゲレンデでスキー、スノーボードが できるほか 、マウンテンバイクなどのアウトドアレジャーが楽しめる。	
	7. ~koto ni	(氷柱が)最も大きくなるのは、 意外なことに 、冬ではなく春から夏。	
	8. ~tame	洞窟内は一年中0~3度に 保たれているため 、冷蔵庫代わりに使われていた時代もある。	

Rincón lingüístico-cultural para hispanohablantes 2:
Comida para llevar. Rutas de peregrinación. Hacerse regalos. 7

トピック 3 健康的な生活 Vida sana

会話する	1. V nante	朝ご飯を 食べないなんて 、ダメ。	9
	2. ~dokoro ka	健康になる どころか 、体壊しちゃうよ。	
	3. ~no) wa, ~ koto da	大切なのは 、栄養のバランスを考えながら、少しずつカロリーを 減らすこと だよ。	
	4. N nanka (~nai)	ダイエット なんか 必要ないんじゃない？	
読んでわかる	5. V -ta tokoro	なんだか体調がよくないと友人に 話したところ 、……健康食品をすすめられた。	10
	6. ~ppoi	それ、 マルチ商法 っぽいね。	
	7. ~wake ja nai	(ゲンキニールは)効き目が ないわけじゃないけど ……	
	8. V kurai nara, ~	そんなの 飲むくらいなら 、その分いいメシを食え。	

Rincón lingüístico-cultural para hispanohablantes 3:
Usos de la partícula final 「かな」. Métodos saludables. Diversos métodos saludables. 11

トピック 4 舞台を見るなら Si vas a ver una representación...

会話する	1. sekkaku (~ n) dakara, ~	せっかくドイツに来てるんだから 、ドイツのオペラのほうがいいかなあ。 せっかくだから 、ネクタイぐらいして行かれれば、楽しめると思いますよ。	13
	2. ~ ni kagiru	こういうのはやっぱり地元のものを見る にかぎり ますよね。	
	3. ~ (no) kawari ni	紙のチケットを 受け取るかわりに 、……印刷して持って行けば、そのまま使えるんですよ。	
	4. N nanka	若い人 なんか 、けっこうラフな格好の人もありますよ。	
読んでわかる	5. V ni wa	合格するには 、専門のスクールに通って、バレエとか歌とかやらないと、まず無理ですね。	14
	6. ~uchi ni	若いうちに 将来有望と注目された人が、長い間努力してやっとなれるのがトッピスターなんです。	
	7. ~ka doo ka	あなたがトッピスターに なれるかどうか なんて、誰にもわかりません。	
	8. V -te (i) ru baai ja nai	本気でなりたいんだしたら、こんなところで 質問している場合じゃない と思います。	

Rincón lingüístico-cultural para hispanohablantes 4:
Artes escénicas tradicionales de Japón. Teatro japonés contemporáneo. 16

トピック5 身近なニュース Noticias locales

会話する	1. ~seide	風が 強かったせいで 、その火が大きくなって、橋のほうにまで広がったらしいです。	17
	2. N ni yoru to	ニュースによると、電気の故障から火が出たそうです。	
	3. V mikomi da	通行止めは3週間ぐらいで 解消される見込み だと言ってました。	
	★ ~soo desu / ~rashii desu	火事だ そうですよ 。／車だけは通れるように するらしいです 。	
読んでわかる	4. N ni kansuru N	日本に関するコラムなどを発信している。	18
	5. N N to ieba, ~	外国人の日本旅行 といえば 、有名観光地、伝統文化、日本料理やショッピングなどが定番だった。	
	6. N ni taishite	外国人観光客 に対して 、新たな日本の魅力を伝えている。	
	7. N wa mochiron, N mo	有名観光地の情報は もちろん 、.....穴場の情報も配信される。	

Rincón lingüístico-cultural para hispanohablantes 5:
Medios de comunicación. Pagar por tirar la basura. Aplicaciones para móviles para turistas. *Omotenashi.* 19

トピック6 これが欲しい! ¡Quiero esto!

会話する	1. V-te moraenai? / V-te moratte (mo) ii?	たこ焼き器、 買ってきてもらえない? 「たこピック」っていうのも、いっしょに 買ってきてもらってもいい?	21
	2. sasuga ni (~nai)	でもたこ焼き器は さすが にこっちは売ってないから。	
	3. ~tte itte mo, ~	でも、たこ焼き器 と言っても 、いろいろ種類あるんじゃない?	
読んでわかる	4. ~ bun	難点は、 高温になるぶん 、消費電力が大きいこと。	22
	5. V-te iru aidam / V-te iru aida ni	たこ焼きを 焼いている間 、ほかの電気製品が使えず...	
	6. V soo ni naru	調理中にプレートが傾いて、 やけどしそうになりました 。	
	7. ~to no koto da	ラッピングも してくれるとのこと でお願いしましたが、.....	

Rincón lingüístico-cultural para hispanohablantes 6:
Kappabashi (calle de tiendas de utensilios) . Souvenirs de Japón. Cosas que traen de Japón los japoneses que viven en el extranjero. 23

トピック7 お気に入りの映画 Mis películas favoritas

会話する	1. ~ (tte) kanji / ~ (tte) ki ga suru	ストーリーがほとんど なかったって 感じじゃない? 見てて すごくリラックスできた気がする 。	25
	2. marude ~ mitai da / yoo da	まるで絵を見ているみたい で。	
	3. V gurai	時間が短く 感じるぐらい 、映画の世界に入り込んでたのかなって思った。	
読んでわかる	4. V-ta toori / N doori	期待したとおり 、いい映画でした! / 評判 どおり すばらしかったです。	26
	5. ~ nagara mo	もう石炭の時代ではないと わかっていながらも 、炭鉱を守ろうと.....	
	6. V-(yo) oto suru	新しいものを 受け入れようとする人々と	
	7. ~mono da	新しいものを 受け入れようとする人々と 、新しいものを認められない人々との対立は、いつの時代にも あるものだ 。	

Rincón lingüístico-cultural para hispanohablantes 7:
"Fukushima Hula Girls" (2011) (Gambappe Hula Girls). Jidai-geki. Studio Ghibli. 27

トピック8 私の街の交通機関 Los medios de transporte de mi ciudad

会話する	1. o V desu	何か お困り ですか?	29
	2. V-ta tsumori da	乗るときに、ちゃんと行き先を確かめて 乗ったつもり なんですけどね。	
	3. ~hodo ~ nai	日本の電車 ほど正確 じゃないですよ。	
	4. ~ ta to omou	この週末、ピカデリー線は工事してるので、 動いてなかった と思いますよ。	
読んでわかる	5. ippoo (de) / ~ ippoo (de) 一方 で、「正確すぎて違和感がある」という人も。 日本人の健康を心配する意見もある 一方 、.....という人も.....	30
	6. N ni yotte	反応は国 によって いろいろでした。	
	7. totemo V-(rare) nai	安心して寝られるなんて、 とても信じられない!	
	8. V -(ra) reru : forma pasiva	隣の人に いびきをかかれて イライラ	

Rincón lingüístico-cultural para hispanohablantes 8:
Normas de conducta en los transportes públicos. Tarjetas para el transporte. La compleja red de estaciones y líneas de Tokio. 31

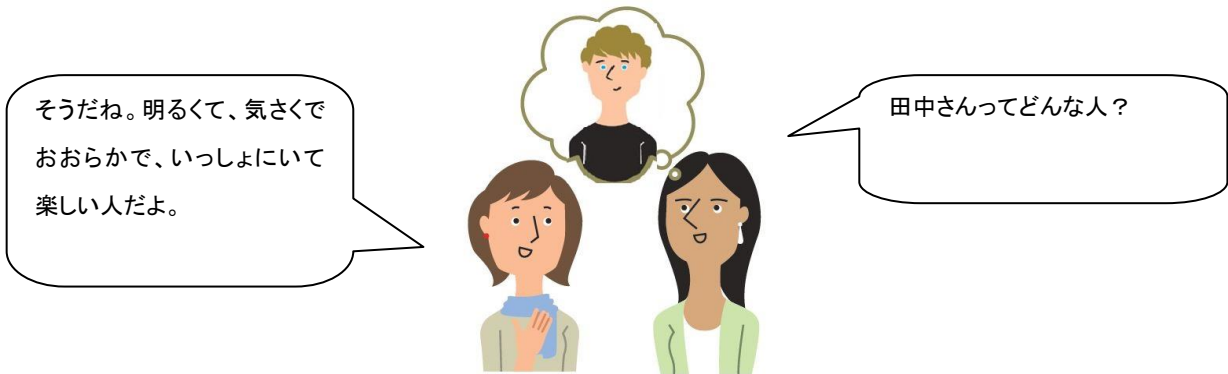
トピック9 忍者、侍、その頃は... La era de los ninjas y los samuráis

会話する	1. ~wake (ga) nai	忍者が今の日本に本当に いるわけ ないでしょう。	33
	2. ~ja nai (desu ka)	忍術道場なら、アメリカに だってたくさんある じゃない。 忍者が使った道具や武器は、 実際に残っている じゃないですか。	
	3. ~tte, ~	今でも忍者がいる って、本当ですか?	
	4. ~to wa kagiranai	まったく 嘘 だとはかぎらないよ。	
読んでわかる	5. N ni oite	勝負 において 、信玄は、.....おごりが出てくるのでよくないと考えていたという。 今の時代 においても 、ビジネスやスポーツなどに通じるもの	34
	6. N de aroo	自分に 厳しく強い 向上心を持った人物だった のであろう 。	
	7. ~kara to itte, ~ nai	謙信は相手が 弱 たから といって 、そこを攻めることは しなかった 。	
	8. N ni totte	時代は違っても、人間 にとって 大切なものは 変わらない のかもしれない。	

Rincón lingüístico-cultural para hispanohablantes 9:
El comienzo y final de los Samuráis. El inicio de los "ninjas". "Ninja Boom" mundial. El antes y después de la época samurái. 35

★ Uso nuevo para formas gramaticales que ya se vieron en niveles anteriores.

どんな人？ ¿Qué tipo de persona es?



Entablar una conversación

Can-do Intercambiar opiniones y puntos de vista sobre un episodio en concreto de un conocido en común.

Forma	Uso
1. 飯塚先生 <u>って</u> 、よく知ってますか？ 2. 怖い <u>って</u> いうか、難しい <u>って</u> いうか、そんな話を聞いたんで… 先生 <u>って</u> いうよりは、頼りになる先輩 <u>って</u> 雰囲気じゃないですか。 3. たしかに飯塚先生 <u>って</u> 、そういう <u>厳しいところ</u> があるよね。 4. いろいろな面が <u>あるってこと</u> だよ。	・ Señalar el tema de una conversación. ・ Decir algo mientras se busca la palabra más aproximada. ・ Hablar sobre el carácter de alguien. ・ Hablar resumiendo las conclusiones.

Comprender leyendo

Can-do Ser capaz de comprender con cierto detalle qué tipo de persona es el protagonista leyendo una entrevista.

Forma	Uso
5. 書道の魅力を <u>伝えたい</u> と、4 年前に自宅で書道教室を開く。 6. 最近、地元の小中学校から出張授業も頼まれるようになった <u>という</u> 。 7. 教室を <u>始めたばかり</u> のころは、……来たり来なかったりする生徒にとまどった <u>という</u> 。 8. 生徒たちの作品をうれしそうに紹介してくれる姿からは、優しくあたたかい人柄が <u>感じられた</u> 。	・ Comunicar lo que dice u opina una tercera persona. ・ Expresar que algo sucede inmediatamente después de realizar otra acción. ・ Expresar que algo sucede de manera natural.

Entablando una conversación

1. 飯塚先生って、よく知ってますか？ Oye, ¿y conoces bastante al Profesor Iizuka?
 奥村先生って、どっちなというと、… El profesor Okumura, por decirlo de alguna manera...

Quando queremos realizar una pregunta o bien indicar el tema del que queremos hablar, utilizamos la expresión 「Nって」. Se emplea generalmente en un contexto informal y de manera oral.

- ・フアンさんって、どこに住んでたっけ? Oye, ¿y Juan dónde vivía?
- ・スペインの首相って、何て名前? ¿Cuál era el nombre del Presidente español?
- ・山田さんの奥さんって、確か書道の先生で字がとても上手なんだよ。 Pues la esposa de Yamada-san ciertamente es profesora de caligrafía, y tiene una letra muy bonita.
- ・ひろ子さんの作る料理って、いつも本当においしいね! Oye, la comida que cocina Hiroko san, ¡de verdad que siempre está buenisima!

2. 怖いっていうか、難しいっていうか、そんな話を聞いたんで… No sé si es que da miedo o si es que es difícil, pero como me han contado eso…

先生っていうよりは、頼りになる先輩って雰囲気じゃないですか。 Más que un profesor, ¿no te parece un alumno mayor en el que se puede confiar?

Cuando estamos hablando sobre un tema y buscamos la palabra más aproximada mientras lo decimos, utilizamos esta forma. Utilizamos 「Aっていうか、Bっていうか…」 cuando queremos expresar que tanto “A” como “B” son las palabras adecuadas para lo que queremos decir. En el contexto formal utilizaríamos 「Aというか、Bというか…」.

・サルバドール・ダリって、個性的っていうか、奇抜っていうか、一言では言いにくいよね。No sé si podríamos decir que Salvador Dalí es singular o si es extraordinario, es difícil definirlo con una sola palabra.

・パンチヨ(猫)は、気が小さいっていうか、臆病っていうか、あまり家の外に出かけたがりません。No sé si Pancho es tímido o miedoso, pero nunca tiene ganas de salir fuera de casa.

・村上春樹の小説って、物語の中に引き込まれるっていうか、心に残るっていうか、そういうのが魅力なのかもしれないね。Las novelas de Haruki Murakami es como si te transportasen al interior de la historia, o como si se te quedasen grabadas, puede que esos puntos sean su atractivo.

Por otro lado, utilizamos 「Aっていうより(は)、B…」 cuando queremos expresar que “B” es más adecuado que “A” para expresar lo que queremos decir. En el contexto formal utilizaríamos 「Aというより(は)、B…」.

・マリアさんって、元気っていうよりは、パワフルだよね。A María más que energética, se la ve fuerte.

・Karlos Arguiñanoって、すごいシェフっていうより、おもしろいおじさんって雰囲気だよね。Karlos Arguiñano más que un cocinero increíble, parece un señor divertido.

・この前グラナダを旅行したんだけど、現代にいるっていうよりは、昔の時代にタイムスリップしたみたいだった。El otro día estuve en Granada, y más que estar en la época actual, parecía que hubiera vuelto a una época en el pasado.

・ランサローテ島を自転車で行ったら、サイクリングっていうより、ロードレースに参加しているような気分になった。Dando una vuelta por la isla de Lanzarote en bicicleta me daba la sensación de que, más que hacer ciclismo, estuviera participando en una carrera.

3. たしかに飯塚先生って、そういう厳しいところがあるよね。 Ciertamente el Profesor Iizuka tiene un lado muy estricto.

Para expresar el carácter o una característica de alguien, utilizamos la expresión 「～ところ(がある)」. La estructura es 「V (forma simple)＋ところ(がある)」, 「adjetivo-い＋ところ(がある)」 o 「adjetivo-NAな＋ところ(がある)」.

・私の母は、けっこう頑固なところがあります。Mi madre tiene una parte bastante cabezota.

・セルヒオさんは、とてもまじめな人だけど、意外にのりがいいところがあるよね。Sergio es una persona bastante seria, pero tiene un lado bastante marchoso.

・ユキさんとマリアさんって、見た目は全然違うのに、性格は似ているところが多いよね。Yuki-san y María-san no se parecen en nada físicamente, pero tienen bastante parecido en cuanto al carácter.

・周りの人からはあまり言われませんが、自分ではわりと神経質なところがあると思います。No me lo suelen decir, pero yo creo que tengo un lado bastante nervioso.

4. いろいろな面があるってことだよ。 Se podría decir que tiene varias facetas.

「～ってことだ」 se utiliza cuando queremos expresar la conclusión o decir cómo entendemos el contenido de algo que nos ha dicho alguien. Suele ir acompañado de la expresión 「つまり」 o bien 「要するに」。En el contexto formal sería 「～ということだ/ことです」.

・A: 仕事は少しぐらい雑でも締め切りより前に早く終わらせた方がいいと言う人もいるし、反対に時間がかかっても最後まで丁寧に完璧にする方がいいと言う人もいますよ。A: Hay gente que opina que el trabajo, aunque sea un poco chapucero, es mejor terminarlo

antes de la fecha límite, y por el contrario hay gente que piensa que hay que hacerlo todo perfecto aunque se tarde más tiempo.

B: **人によって考え方が違うってことですね。** B: Ya veo. Se podría decir que la forma de pensar depende de cada uno.

・A: サグラダファミリアは、時間のある人は朝早くから並んでチケットを買ってるみたいだよ。でも、いつも混んでるし、並ぶのにすごく時間かかるし、あんまりお勧めできないかな。友達がネットでチケット買ったら、すごい楽だったって言ってたよ。A: **Parece que la gente que tiene tiempo hace cola desde temprano para comprar las entradas de la Sagrada Familia, pero suele estar concurrido y se tarda mucho, así que no te lo recomiendo. Un amigo me dijo que es muy cómodo comprar las entradas por Internet.**

B: **じゃ、事前にインターネットで予約した方がいいってことだね。** B: O sea, que es mejor reservar por Internet, ¿no?

・A: グラナダへ行く電車は途中でバスに乗り換えて行くから5時間ぐらいかかります。マドリードからバスで行っても同じくらいです。

A: **Para ir a Granada en tren hay que hacer una parte en autobús y se tardan unas cinco horas. Desde Madrid se tarda casi lo mismo yendo sólo en autobús.**

B: **要するに、電車でもバスでも時間は変わらないということですね。**それなら値段の安いほうがいいです。B: **Así que se tarda lo mismo en tren que en autobús. Entonces prefiero la manera más económica.**

Comprender leyendo

5. 書道の魅力を伝えたいと、4年前に自宅で書道教室を開く。Queriendo transmitir el atractivo de la caligrafía, comenzó a dar clases en su casa hace cuatro años.

Para comunicar el contenido de lo que se ha dicho o se opina, utilizamos 「～と」。Como en el ejemplo 「書道の魅力を伝えたいと(思っ)て、～」 se omite 「思っ)て」。Igualmente se suelen omitir 「言っ)て」「考へ)て」 etc. Se utiliza 「F en forma simple +と、～」.

・本場のフラメンコを習いたいと、スペインへ留学する日本人も多い。**Queriendo aprender el flamenco más auténtico hay muchos japoneses que van a España para estudiar.**

・日本人観光客に英語で話しかけられたので日本語で答えたら、とても日本語が上手だと驚かれた。**Al contestar en japonés a unos turistas japoneses que me preguntaron en inglés, se sorprendieron por mi buen japonés.**

・私の母は、祖母に喜んでもらおうと、誕生日に温泉旅行をプレゼントするそうだ。**Mi madre quiere hacer feliz a mi abuela regalándole un viaje a un balneario por su cumpleaños.**

・日本語学習のモチベーションを高めようと、JLPT N2を申し込んだ。

Esperando aumentar mi motivación hacia el estudio del japonés, me he apuntado al JLPT N2.

6. 最近、地元の小中学校から出張授業も頼まれるようになったという。Dice que últimamente le están pidiendo que vaya a dar clases al colegio de su infancia.

Para comunicar las experiencias o sentimientos de una tercera persona utilizamos la estructura 「～という」。La expresión completa es 「～という(こと)だ」 en la que el 「(こと)だ」 se abrevia, y tiene el mismo significado que 「～そうだ」 (ver A2-2 L14), y se utiliza cuando queremos comunicar a otra persona la información que hemos oído de una tercera persona. La estructura es 「F en forma simple +という」。La forma 「～という」 se emplea tanto en artículos periodísticos como lenguaje escrito, pero no se utiliza de forma oral.

・山田さんはスペインのランチタイムになかなか慣れなかったが、近頃は、午後3時でも平気だという。**Yamada-san no se acostumbraba al horario de comidas al mediodía en España, pero últimamente dice que incluso a las tres le va bien.**

・恵子さんには、全く同じ誕生日の友達が3人もいるという。**Keiko-san dice que tiene tres amigos que cumplen años el mismo día.**

・フリオさんと美穂さんは、出会ってから3日で結婚することを決めたという。**Julio-san y Miho-san dicen que decidieron casarse a los tres días de haberse conocido.**

7. **教室を始めたばかりのころは、……来たり来なかつたりする生徒にとまどつたという。** Dice que le desconcierta que nada más comenzar las clases haya alumnos que vengan y otros que no.

Cuando queremos enfatizar que tras realizar una acción y comenzar otra no ha pasado mucho tiempo utilizamos la estructura 「Vたばかり」. Igualmente se emplea a menudo 「Vたばかりなので」 para rechazar algún ofrecimiento, o bien transmitir una excusa.

- ・日本語を**始めたばかりのころは**、ひらがなとカタカナを覚えるのに苦労した。 Cuando acababa de empezar el estudio del japonés, me costó aprender tan solo el hiragana y katakana.
- ・引越してきたばかりで、マドリードのことをよく知らないんです。 Como me acabo de mudar no conozco bien Madrid.
- ・(デザートを勧められたとき)お昼ご飯を**食べたばかりなので**、お腹がいっぱいなんです。すみません。(Cuando le ofrecen el postre) Lo siento, acabo de comer y estoy lleno.
- ・ギターを習い**始めたばかりなので**、まだ上手に弾けません。 Como acabo de empezar a aprender a tocar la guitarra, aún no puedo tocar muy bien.

8. **生徒たちの作品をうれしそうに紹介してくれる姿からは、優しくあたたかい人柄が感じられた。** Al verle presentar los trabajos de sus alumnos tan felizmente, se percibe que es una persona muy amable y cálida de carácter.

Cuando queremos expresar que de manera natural sentimos o pensamos algo utilizamos la expresión 「V(ら)れる」. La forma es igual que la pasiva. Se utiliza generalmente con verbos que expresan sentimientos (感じる、思う、思い出す、考える、期待する、etc.). Se utiliza como expresión escrita en entrevistas, ensayos o relatos de experiencias personales.

- ・ピカソの子どもを描いた数々の作品を見ていると、子どもに対する愛情が**感じられる**。 Al ver varias obras que pintó Picasso sobre niños se puede sentir su cariño hacia ellos.
- ・昨日のマリアさんの電話の様子から、何か悩みがあると**思われる**。 Al escuchar cómo hablaba María ayer al teléfono, se nota que tiene alguna preocupación.
- ・セマナ・サンタは旅行する人が多いので、どこに行っても混雑することが**予想される**。 Debido a que mucha gente viaja en Semana Santa, se puede prever que vayas donde vayas esté todo lleno.
- ・ロボット産業の発展は、人手不足問題の改善につながると**考えられる**。 Se cree que el desarrollo de la industria de los robots va a ir unido a la mejora del problema de escasez de mano de obra.

Rincón lingüístico-cultural para hispanohablantes

1. Palabras que expresan el carácter y la personalidad (valoración positiva / valoración negativa)

Entre las palabras que expresan el carácter o la personalidad existen unas con “valoración positiva” y otras con “valoración negativa”. Es muy importante al usarlas comprender que valoración conllevan. Igualmente, aunque un tipo de carácter o personalidad sea negativo para uno mismo, para que no sea un insulto, a la hora de explicar a otra persona sobre dicho carácter se puede suavizar la impresión utilizando también palabras de valoración positiva.

Palabras que expresan el carácter y la personalidad

Valoración positiva	Valoración negativa
きれい好き(aseado, pulcro)、ハキハキしている(vivaz)、バ ワフル(fuerte)、おおらか(generoso)、几帳面 (meticuloso)、気さ く (sencillo)、頼りになる (ser de confianza)、のりがいい (marchoso)	子どもみたい (infantil)、だらしない (dejado)、怒りっぽい (enfadadizo)、ルーズ (descuidado)、神経質 (nervioso)、 気が短い (impaciente)、自分勝手 (egoísta)、頑固 (cabezón)

2. Palabras que expresan el carácter y la personalidad (modismos)

Se conoce como “modismos” a las palabras que están compuestas por dos o más kanji, y en el contexto de expresar sentimientos hay una gran variedad. Vamos a presentar los modismos de más de cuatro kanji que se utilizan frecuentemente. Los vamos a separar en valoración positiva (+) y negativa (-).

- ひんこうほうせい 品行方正: Tener buena conducta, ser una persona noble. (+)
- てんしんらんまん 天真爛漫: Ser un ingenuo, inocente. (+)
- こうきしんおうせい 好奇心旺盛: Ser una persona muy curiosa, que le atrae lo extraño y desconocido. (+)
- はっぽうびじん 八方美人: Tratar de agradar a todo el mundo. (-)
- ゆうじゆうふだん 優柔不断: Persona indecisa a la que le cuesta tomar decisiones. (-)
- みっかぼうず 三日坊主: No tener perseverancia y aburrirse pronto de algo. (-)
- じいしきかじょう 自意識過剰: Persona que se preocupa demasiado de lo que piensan de él. (-)

3. La adivinación y el diagnóstico de la personalidad

En Japón hay tendencia a separar la personalidad en tipos según la adivinación (ya sea por la fecha de nacimiento, el horóscopo, el grupo sanguíneo, etc.). Hay una gran cantidad de páginas web japonesas en las que contestando a una serie de preguntas se puede diagnosticar el tipo de personalidad. Estos test de personalidad se consideran una parte de la adivinación. En las páginas orientadas a mujeres, como puede ser “Woman excite”, hay un apartado de “ranking de diagnóstico de personalidad”. En la parte inferior podemos ver los sitios más visitados en enero de 2018:

“Ranking de diagnóstico de personalidad” <https://woman.excite.co.jp/shindan/personality/ranking/>

1. ¿Eres de los que se escapan psicológicamente? (Mide el índice de escapismo psicológico)
2. ¿Eres un genio incomprendido? (Mide el grado de genialidad aislada)
3. Nunca cambiarás o podrás cambiar... diagnostica tu punto intrínseco.
4. ¿Eres caprichoso? Mide tu grado de egoísmo.
5. Cuando te canses de la gente, ¡ponlo en práctica! La terapia de “limpieza mental” más adecuada para ti.

A las personas que visitan este sitio, más que interesarse por diagnósticos de personalidad, les preocupa cómo relacionarse con su entorno. ¿Qué tal si os animáis vosotros también a realizar alguno de estos test?

4. Ranking de aspectos importantes que se esperan por parte de los solteros en la pareja para casarse

¿Cuál es el carácter que os gustaría que tuviese vuestra pareja? ¿Buscáis lo mismo en un novio que en una pareja para casaros? En la página web japonés “Mynavi woman” hay publicado un ranking de cuáles son los aspectos más apreciados para la pareja matrimonial, separado por sexos. <https://woman.mynavi.jp/article/170329-24/>

Ranking de aspectos importantes que los solteros buscan en la pareja para casarse

Varones	Mujeres
Nº 1 Tener carácter compatible 66.8%	Nº 1 Tener carácter compatible 80.3%
Nº 2 Ser considerado 55.3%	Nº 2 Ser considerado 77.1%
Nº 3 Ser fiel 47.2%	Nº 3 Ser fiel 70.6%
Nº 4 Mismo concepto de la vida 40.7%	Nº 4 Ingresos 56.4%
Nº 5 Buena presencia 40.2%	Nº 5 Generosidad 56.0%

Tanto en varones como mujeres coinciden los tres primeros puestos, pero en el caso de las mujeres los porcentajes son más altos. Por otro lado, en el cuarto puesto para las mujeres, los ingresos se consideran muy importantes, recibiendo más del 50% de los votos. Como en la sociedad japonesa es común que la mujer al casarse deje su trabajo y se dedique a su familia, es por lo que los ingresos de su pareja pueden ser una preocupación. Os recomendamos que preguntéis a algún conocido japonés sobre cuáles son los “aspectos importantes de su pareja”.

トピック2

富士登山 Escalando el monte Fuji

いいねえ、それは食べないわけにはいかないよね。



山梨はほうとうがおいしいって聞いたんですけど、ランチに食べてみるのはいかがでしょうか？

Entablar una conversación

Can-do Poder expresar nuestros deseos, escuchar la opinión de un amigo y crear un plan para organizar un viaje.

FORMA	USO
1. 一日で <u>登れないこともない</u> みたいだけど。 2. 富士山に登ったら、日本最高点まで <u>行かないわけにはいかない</u> ですね？ 3. それは、 <u>行くしかない</u> よね。 4. レンタカー借りて、麓の観光地を <u>まわるの</u> はどう？	<ul style="list-style-type: none"> •Mostrar posibilidad •Expresar que el curso de una acción es el lógico •Expresar que no hay más remedio que hacer algo •Hacer una propuesta

Comprender leyendo

Can-do Poder leer la información turística de una guía de viajes y comprender las características de un destino y, por ejemplo, las actividades que se pueden hacer en él.

FORMA	USO
5. 新鮮な空気を吸い込めば、身も心もリフレッシュ <u>できるに違いない</u> 。 6. 夏季は、サマーゲレンデでスキー、スノーボードが <u>できるほか</u> 、マウンテンバイクなどのアウトドアレジャーが楽しめる。 7. (氷柱)が最も大きくなるのは、 <u>意外なことに</u> 、冬ではなく春から夏。 8. 洞窟内は一年中0～3度に <u>保たれているため</u> 、冷蔵庫代わりに使われていた時代もある。	<ul style="list-style-type: none"> •Decir que se está seguro de algo •Indicar que hay algo más aparte de lo mencionado •Añadir un comentario personal •Indicar un motivo o causa

Entablar una conversación

1. 一日で登れないこともないみたいだけど。Por lo visto, podría escalarse en un día, pero...

Empleamos la expresión 「～こともない」 para indicar que, pese a que exista cierta posibilidad de hacer algo, no nos parece del todo una buena idea o no la recomendamos. Con este tipo de expresión mostramos nuestra opinión de manera indirecta y evitamos así emitir un juicio categórico. Se utiliza según la estructura 「Vないこともない」 y suele emplearse con verbos potenciales (verbos en la forma potencial).

- バスで行けないこともないみたいだけど、電車のほうが便利みたい。Por lo visto en autobús se puede ir, pero parece que el tren es mejor.
- スペイン語が話せないこともないけど、英語で話してくれたほうがよくわかります。Español sé, pero me entero mucho mejor si me hablan en inglés.
- 納豆を食べられないこともないけど、あまり好きじゃないな。El natto, comerlo, lo como, pero tampoco me encanta.
- 妹は車を運転できないこともないんだけど、いつも自転車で通勤しているよ。No es que mi hermana no sepa conducir, pero siempre voy al trabajo en bici.

2. 富士山に登ったら、日本最高点まで行かないわけにはいかないですよ。 Si subes al monte Fuji, no puedes dejar de ir hasta el punto más elevado de Japón.

La construcción 「～ないわけにはいかない」 expresa una voluntad positiva y sólida de realizar algo sin falta, es decir, la idea de no dejar pasar la oportunidad de hacer algo. Se construye según la estructura 「Vないわけにはいかない」.

Dependiendo del contexto puede adoptar varios significados. Por ejemplo, también usamos esta fórmula para indicar que no podemos desatender una obligación, o para señalar una acción indeseada pero irremediable, como en esta frase: 「今日は大雨だけど、テストがあるから学校に行かないわけにはいかない」 (“Hoy llueve a cántaros pero, como tengo un examen, no me queda más remedio que ir a la escuela”).

- ・大阪に行ったら、お好み焼きを**食べないわけにはいかない**よね。 Si vas a Osaka, no puedes dejar de probar el okonomiyaki.
- ・バルセロナに行ったら、ガウディの建築を**見ないわけにはいかない**よ。 Si vas a Barcelona, tienes que visitar los edificios de Gaudí.
- ・セルバンテスが好きなら、アルカラ・デ・エナーレスに**行かないわけにはいかない**ですよ。 Si te gusta Cervantes, tienes que visitar Alcalá de Henares sin falta.
- ・日本のアニメが好きなんですか。じゃあ、宮崎駿のアニメを**見ないわけにはいきません**ね。 ¿Te gusta el anime? Pues entonces no puedes perderte las animaciones de Hayao Miyazaki.

3. それは行くしかないよね。 ¡Pues habrá que ir!

La fórmula 「～しかない」 sirve para indicar que, dadas las circunstancias, estamos obligados a hacer algo o que no hacerlo nos resulta inconcebible. Por ejemplo, usamos esta expresión cuando va a celebrarse un acontecimiento muy interesante y nos parece inconcebible dejar escapar la oportunidad de asistir. Aparte, se emplea para expresar que, a falta de alternativas, no nos queda más remedio que hacer algo. Adopta la estructura 「V (forma diccionario)+しかない」.

- ・A: 宝くじで10万円当たったんだ。 ¡Me han tocado 100 000 yenes en la lotería!
B: すごい！それは、みんなにビールを**おごるしかない**よね。 ¡Hala! ¡Pues tendrás que invitarnos a todos a unas cervezas!
- ・A: ジャスティン・ビーバーがマドリッドに来るんだって。 Por lo visto, Justin Bieber va a venir a Madrid.
B: ほんとう？それは、**見に行くしかない**よね。 ¿En serio? Pues habrá que ir a verlo, ¿no?
- ・A: 林さんはソムリエなんだって。 Por lo visto, el Sr. Hayashi es sumiller.
B: へー、そうなの。じゃあ、ワインのことは林さんに**聞くしかない**ね。 ¡Ah!, ¿sí? Pues habrá que pedirle consejo sobre vinos.
- ・A: マリアさんが大学に合格して、奨学金ももらったんだって！ Por lo visto, María ha aprobado los exámenes de la universidad y además le han concedido una beca!
B: やったね。それはみんなでお祝い**するしかない**よね。 ¡Vaya, lo logró! ¡Pues tendremos que juntarnos todos para celebrarlo!
- ・東京行のフライトが突然キャンセルになった。今から他のフライトを予約するのは無理だから、マドリッドにもう**一泊するしかない**。 Han cancelado de repente el vuelo con destino a Tokio. No tiene ningún sentido que nos pongamos a reservar otro vuelo ahora, así que no nos queda más remedio que pasar una noche más en Madrid.

4. レンタカー借りて、麓の観光地をまわるのはどう？ ¿Qué os parece alquilar un coche y recorrer los sitios turísticos situados al pie del monte?

La fórmula 「～のはどう(ですか)」 se emplea para hacer una propuesta sobre algún asunto que ya haya sido decidido. Se diferencia así de las fórmulas de frases como 行きませんか o 行きましょう, con las que se lanza una propuesta totalmente nueva. Se construye mediante la estructura 「V (forma diccionario)+のはどう(ですか)」.

- ・どこかへでかけるのなら、お弁当を持って、お花見に**行くのはどう？** Pues si vamos a salir, ¿qué te parece coger algo de comida para llevar e ir a ver los cerezos en flor?
- ・先生の意見を聞いてから、グループ発表のテーマを**決めるのはどう？** ¿Por qué no elegimos el tema de la presentación en grupo una vez que hayamos escuchado la opinión del profesor?

・A: 友達が家に来るんだけど、何をしたらいいかなあ。 Van a venir unos amigos a casa, pero no sé qué podemos hacer.

B: 映画を見るのはどう? ¿Qué te parece ver una película?

・夏に旅行するのなら、旅行会社に行って、いろいろパンフレットをもらってくるのはどう? Si estás pensando en viajar en verano, ¿por qué no vas a alguna agencia de viajes y coges algunos folletos?

Comprender leyendo

5. 新鮮な空気を吸い込めば、身も心もリフレッシュできるに違いない。 Si respiras su aire fresco, ten por seguro que te sentirás revitalizado de cuerpo y espíritu.

Usamos la expresión 「～に違いない」 para formular una conjetura con mucha certeza, es decir, para indicar que creemos estar muy seguros de algo. Las guías de viaje o en los folletos que anuncian algún evento suelen utilizar esta fórmula para convencer al lector de los atractivos de un lugar o de una actividad. Asimismo, los autores de ensayos y estudios suelen emplearla para expresar sus argumentos. Las estructuras que adopta esta expresión son las siguientes: 「V (forma simple)+に違いない」, 「adjetivo-I+に違いない」, 「adjetivo-NA+に違いない」 y 「N+に違いない」.

・マリアさんは毎日6時間勉強したので、日本語能力試験に合格するに違いない。 María ha estado estudiando 6 horas diarias, así que estoy seguro de que aprobará el Noken.

・この家は山の上にあるから、夏は涼しいに違いない。 Esta casa está en lo alto del monte, seguramente será fresca en verano.

・あの人の服はシャネルだね。きっと10万円はするに違いないよ。 Esa prenda que lleva es de Chanel. Así que ten por seguro que costará 100 000 yenes como mínimo.

・今、大人気の絶叫マシン! あなたも大興奮するに違いありません。 ¡Y ahora con la popular atracción que seguro te entusiasmará a ti también!

・最近、出生率が低くなり、人口が減少している。これは、将来大きな問題となるに違いない。 En los últimos años la tasa de natalidad se ha reducido y la población está decreciendo. No cabe duda de que esto supondrá un grave problema en el futuro.

6. 夏季は、サマーゲレンでスキー、スノーボードができるほか、マウンテンバイクなどのアウトドアレジャーが楽しめる。 En la temporada de verano se puede esquiar en la pista de esquí artificial y, aparte, se puede disfrutar del ocio al aire libre, en bicicleta de montaña por ejemplo.

La expresión 「～ほか」 indica que existe algo más aparte de lo mencionado; es decir se emplea en frases como 「日本語にはひらがなのほか、カタカナや漢字もある」 (“En japonés no solo hay hiragana, sino también katakana y kanji”) adoptando el mismo significado que la expresión 「～だけではなく、～も」. Es una expresión propia de la lengua escrita y se construye con la estructura 「V (forma simple)+ほか」 o 「Nの+ほか」.

・あの島へはフェリーで行けるほか、橋でも歩いて渡れる。 Hasta esa isla se puede llegar en barco y a pie cruzando el puente.

・旅行社ではホテルの予約のほか、レンタカーも手配してくれる。 La agencia de viajes se encarga de la reserva del hotel, así como del alquiler del coche.

・このレストランでは、和食のほか、韓国料理も食べられる。 En este restaurante, además de comida japonesa, puedes probar también comida coreana.

・坂本さんは、スペイン語のほか、カタルーニャ語も話せる。 Aparte de español, el Sr. Sakamoto también habla catalán.

7. (氷柱が)最も大きくなるのは、意外なことに、冬ではなく春から夏。 [Los carámbanos] contra todo pronóstico no alcanzan su mayor tamaño en invierno, sino entre primavera y verano.

Para expresar el sentimiento personal que se experimenta ante algo, empleamos fórmulas como 「うれしいことに」 (felicidad), 「驚いたことに」 (sorpresa), 「残念なことに」 (decepción), 「悲しいことに」 (tristeza), 「腹が立ったことに」 (enfado), etc. Suele tratarse de expresiones de la lengua escrita y, por lo general, aparecen al inicio de la frase que expresa el asunto en cuestión.

Adopta las estructuras 「Vた+ことに」, 「adjetivo-い+ことに」 y 「adjetivo-NAな+ことに」.

- ・残念なことに日本からリスボンへの直行便はまだない。Lamentablemente todavía no hay vuelos directos entre Japón y Lisboa.
- ・驚いたことに高野山は外国人にとっても人気がある。El monte Yoshinoyama es muy popular entre los extranjeros, lo cual resulta sorprendente.
- ・うれしいことに来年の春、バルセロナに留学できることになった。Afortunadamente, iré a estudiar a Barcelona el próximo año en primavera.
- ・困ったことに試験期間中に日本から友達が来ることになった。Me va a venir a visitar un amigo desde Japón en mitad de la época de exámenes, lo cual me supone un problema.

8. 洞窟内は一年中0～3度に保たれているため、冷蔵庫代わりに使われていた時代もある。En el interior de la cueva la temperatura se mantiene constante entre 0 y 3 grados durante todo el año y por ello hubo una época en que fue empleada a modo de refrigerador.

La fórmula 「～ため」 expresa causa o motivo, y puede sustituirse por 「ので」 o 「から」. Las estructuras que adopta son las siguientes: 「V (forma simple)+ため」, 「adjetivo-い+ため」, 「adjetivo-NAな+ため」 y 「Nの+ため」.

- ・日本の住宅は地震の揺れに強くできています。これは、日本では地震が多いためです。Las viviendas japonesas se construyen de manera que sean resistentes a las sacudidas de los terremotos. Esto se debe a que en Japón hay muchos sismos.
- ・ストのため、今日は公共交通機関が使えません。Debido a la huelga, hoy no se pueden usar los medios de transporte públicos.
- ・地球には昼と夜がある。これは地球が自転しているためだ。En la Tierra existen el día y la noche. Esto se debe a que el planeta rota sobre su eje.
- ・この階段は、お年寄りには上り下りが困難なため、作り変える必要がある。A las personas mayores les cuesta mucho subir y bajar esta escalera, así que hace falta reformarla.

Rincón lingüístico-cultural para hispanohablantes

1. Comida para llevar (お弁当)

En Japón existen muchos tipos de *obentoo*. Uno de los atractivos de viajar en tren son precisamente los *ekiben* (駅弁), es decir, los que son vendidos en las estaciones de ferrocarril o en los propios vagones. Su contenido varía en función del lugar y permite descubrir cuáles son los productos típicos de la región que se visita. Los viajes en el tren bala y demás trenes de alta velocidad son cada vez más comunes y, como resultado, las ventas de los *ekiben* han ido disminuyendo, pero cabe destacar el caso de “Toge no kamameshi”, que no ha dejado de ser popular desde que salió a la venta en 1958. Además, los envases en los que se sirve el *obentoo* suelen tener diseños muy peculiares, y hay incluso quienes los coleccionan. Fuera de las estaciones, esta comida para llevar sigue siendo muy diversa. Un ejemplo es el *kyaraben* (キャラ弁, contracción de キャラクターお弁当), cuyos ingredientes se colocan formando el retrato de algún personaje, como Pokemon o Totoro. Suelen ser las madres quienes los preparan, pero también existen versiones artísticas, así como muchos *blogs* que enseñan cómo elaborarlos en general. En la web se pueden encontrar muchas recetas, tanto de *obentoo* como de otros muchos platos; un ejemplo es el portal Cookpad (<https://cookpad.com>), cuya web japonesa ofrece el mayor servicio de Japón de recetas y atrae a muchísimos cibernautas.

2. Rutas de peregrinación

Al igual que el famoso Camino de Santiago, en Japón también existen rutas de peregrinación y, de hecho, en los últimos años muchos turistas, tanto japoneses como extranjeros, participan en viajes organizados en torno a las mismas. Básicamente, los

peregrinos hacen el camino a pie y reciben un sello a su paso por diversos templos, que toman el nombre de *fudasho* (札所). La estampa se puede sellar en una libreta acreditativa, en un papel enrollado a modo de pergamino e incluso en un kimono de color blanco. Por su popularidad, destaca especialmente la ruta Ohenro, un itinerario por la isla de Shikoku que recorre 88 templos siguiendo los pasos del monje Kukai (también conocido como Kobo Daishi). La tradición marca que los peregrinos hagan la ruta a pie y portando ropa blanca, un sombrero tipo *kasa* y un bastón. Antaño se trataba de un viaje muy penoso, pero en la actualidad resulta más cómodo, ya que existen incluso recorridos en autobús. Además, los útiles necesarios para el viaje se pueden conseguir fácilmente con alguno de los kits de peregrinación disponibles a la venta. Se calcula que cada año esta ruta atrae a un número de peregrinos que oscila entre las 10 000 y 30 000 personas, de las cuales entre 2500 y 5000 hacen el recorrido a pie. Los motivos para emprender este viaje son muy diversos, pero muchos lo realizan para pedir salud, fortuna o amor, o para hacer una introspección personal.

En Japón hay muchas otras rutas de peregrinación, pero cabe destacar el también célebre camino de Kumano, un itinerario a través de las prefecturas de Wakayama, Nara, Mie y Osaka que ha sido declarado Patrimonio de la Humanidad. Su recorrido permite alcanzar, entre otros, los montes Koyasan y Yoshinoyama. En el primero es posible pernoctar en las residencias de algún templo, conocidas como *shukuboo* (宿坊). Yoshinoyama, por su parte, es conocido por la belleza de sus cerezos; de ahí que sea un destino muy visitado durante la primavera. Es más, en referencia a su vegetación se emplea el dicho 「一目千本」, ya que este lugar es posible abarcar “un millar de cerezos de un solo vistazo”.

3. Hacerse regalos

Seguramente muchos extranjeros sientan cierta perplejidad ante la costumbre japonesa de hacerse obsequios. Y es que los japoneses se hacen muchos regalos. El sentido de algunos de estos presentes es inseparable del modo de vida de los japoneses, como es el caso de los presentes típicos de verano e invierno: *ochuugen* y *oseibo* (お中元 y お歳暮 respectivamente). A modo de agradecimiento, también se dan regalos a los superiores del trabajo y a quienes que te hayan prestado su ayuda en algún momento. Su precio suele rondar entre 5000 y 10 000 yenes, y mucha gente los adquiere en comercios que ofrecen un servicio de envío a domicilio.

Según un estudio publicado en Internet, el *ranking* de obsequios preferidos está encabezado por los vales de regalo, las cervezas y los catálogos de regalos. En cambio, los menos deseados son alimentos que no gusten al receptor y artículos que no encajen con sus aficiones. Aparte, también es común dar dinero en efectivo a los niños por Año Nuevo, o cuando alguien se casa o ha tenido un bebé; para ello, se introduce la cantidad en un sobre especial denominado *shuugibukuro* (祝儀袋). La suma que se regala con motivo de una boda puede variar mucho, pero por lo general se dan unos 30 000 yenes y, si se es pariente de los novios, entre 50 000 y 100 000. A cambio, los asistentes a la boda reciben un obsequio, llamado *hikidemono* (引き出物).

En Japón es además muy importante la tradición de corresponder a los regalos. Quien regala quizá diga expresamente que no necesita nada a cambio, pero por norma el receptor le corresponde con otro obsequio, ya que de no hacerlo resultaría maleducado. Asimismo, los japoneses traen recuerdos cada vez que vuelven de un viaje. Suelen repartirlos entre la familia, los amigos y los compañeros de trabajo, en cuyo caso es común llevar algún dulce y comerlo entre todos.

Los envoltorios de los regalos también son un elemento muy importante de la cultura japonesa. En Japón algunos están elaborados con tal belleza que uno llega a sentir verdadero reparo a la hora de romperlos. Su uso excesivo también ha levantado voces críticas contra el despilfarro de papel, pero la belleza del envoltorio probablemente sea también una expresión de la estética japonesa.

Cuando se entrega un presente, es habitual usar la expresión 「つまらないものですが。」. Esta frase refleja el sentido de la humildad que tanto se valora en la cultura japonesa, pero con ella también tratamos de descargar al receptor del regalo de la obligación de correspondernos con otro más.

健康的な生活 Vida sana



Entablar una conversación

Can-do Ser capaz de dar nuestra opinión sobre formas de vida saludable y dar consejos a los demás.

Forma	Uso
1. 朝ご飯を 食べないなんて 、ダメ。 2. 健康に なるどころか 、体壊しちゃうよ。 3. 大切なのは 、栄養のバランスを考えながら、少しずつカロリーを 減らすこと だよ。 4. ダイエット なんか必要ない んじゃない?	・Expresar sorpresa. ・Expresar el sentido contradictorio de una frase. ・Transmitir una opinión o crítica. ・Expresar una negación rotunda.

Comprender leyendo

Can-do Ser capaz de comprender aproximadamente la opinión del escritor acerca de alimentos saludables leyendo foros u otros contenidos de internet.

Forma	Uso
5. なんだか体調がよくないと友人に 話したところ 、……健康食品をすすめられた。 6. それ、 マルチ商法 っぽいね。 7. (ゲンキニールは)効き目が ないわけじゃない けど、…… 8. そんなの 飲むくらいなら 、その分いいメシを食べ。	・Expresar el motivo de algo. ・Decir algo teniendo en cuenta una situación o estado. ・Expresar una negación suave. ・Comparar algo que nos parece que esté mal con algo bueno.

Entablando una conversación

1. 朝ご飯を**食べないなんて**、ダメ。 No me puedo creer que no desayunes. Eso no está bien.

La estructura 「～なんて」 tiene muchos significados y usos, pero generalmente la estructura 「V (forma diccionario/ない)+なんて」 se añade para expresar el sentimiento de sorpresa del hablante. Si al principio de la frase añadimos interjecciones emotivas como 「えー」「へー」「ふーん」 etc, enfatizamos los sentimientos de sorpresa, aburrimiento o admiración.

- ・え、一日に4時間しか睡眠を**とらないなんて**、体によくはないよ。 ¿¡Eh?! ¿Solamente duermes cuatro horas al día? Eso es malo para la salud.
- ・へー、今度のマラソン大会に**出るなんて**、すごいね。 Vaya, es impresionante que vayas a participar en la próxima competición de maratón.
- ・乗馬クラブに入るのに、そんなにお金**がかかるなんて**、知らなかった。 No sabía que inscribirse en un club de hípica costase tanto dinero.
- ・ふーん、加藤さんがテニスの選手**だったなんて**、信じられないね。 Uhhh, el hecho de que Kato sea jugador de tenis, es increíble.

2. 健康に**なるどころか**、体壊しちゃうよ。 En vez de ser algo saludable, te vas a poner enferma.

Empleamos la expresión 「～どころか」 cuando queremos negar lo que se espera que vaya a suceder en una situación y expresar que posiblemente suceda lo contrario. La estructura es 「V (forma simple)+どころか」, 「adjetivo-I い+どころか」, 「adjetivo-NA

な+どころか」, y 「N +どころか」. Primero exponemos un asunto, y a continuación la situación contraria o que contradice, consiguiendo así enfatizar el contenido.

- ・毎日20キロも走ったら、運動に**なるどころか**、ひざを痛めちゃうよ。 **Corriendo 20 km todos los días, más que ser un ejercicio, terminarás fastidiándote las rodillas.**
- ・サラダしか食べなかったら、ダイエットに**なるどころか**、栄養失調になっちゃうよ。 **Comiendo nada más que ensalada, en vez de ser una dieta, terminarás con falta de nutrientes.**
- ・夏休みは**休めるどころか**、どこへ行っても人が多くて疲れちゃったよ。 **Más que un descanso en las vacaciones de verano, había tanta gente en todos sitios que he terminado cansándome.**
- ・海に行ったら**海水浴どころか**、クラゲが多くて泳げなかったよ。 **Fuimos a la playa y más que darnos un baño, no pudimos entrar al agua por la cantidad de medusas que había.**

3. **大切なのは、栄養のバランスを考えながら、少しずつカロリーを減らすことだよ。** Lo más importante es reducir las calorías poco a poco mientras se mantiene el equilibrio de nutrientes.

Empleamos 「～(の)は、～ことだ」 cuando queremos resumir nuestra opinión o criterio sobre el tema de la conversación. La parte que contiene 「～ことだ」 expresa el contenido que el hablante quiere transmitir. Empleamos la forma 「V (forma simple)+のは、～ことだ」, 「adjetivo-い+のは、～ことだ」, 「adjetivo-NAな+のは、～ことだ」, y 「N+は、～ことだ」.

- ・健康のために**大切なのは**、規則正しい生活を**することだ**。 **Lo más importante para la salud es llevar una vida sana.**
- ・ダイエット中に、**一番つらいのは**、お菓子が**食べられないことだ**。 **Lo más duro de estar a dieta es no poder comer dulces o snacks.**
- ・**気を付けなければならないのは**、無理な運動は**しないことだ**。 **Hay que tener cuidado de no esforzarse de más al hacer ejercicio.**
- ・減量を**成功させるポイント**は、少しずつ食事の量を**減らしていくことだ**。 **Para conseguir perder peso hay que reducir poco a poco la cantidad de alimento.**

4. **ダイエットなんか必要ないんじゃない？** ¿No crees que es innecesario hacer dieta?

La estructura 「なんか」 tiene muchos usos y significados, pero en este caso, 「N なんか(～ない)」 le resta importancia a dicho sustantivo, y va seguido de una negación (o una frase con significado negativo), con lo que se expresa el sentimiento de negación contundente. Es una expresión que se utiliza oralmente, y sobre todo en contextos informales. En el caso de la expresión escrita, se emplea 「N など」. Se puede emplear en el lugar de 「N なんか」 la forma 「N なんて」.

- ・睡眠薬**なんか**いらんないんじゃない？ **¿No crees que no hace falta ningún medicamento para dormir?**
- ・高いスポーツクラブ**なんか**行かなくてもいいんじゃない？ **¿No crees que es innecesario ir a un gimnasio costoso?**
- ・健康食品**なんか**買っても無駄だ。 **Es innecesario comprar productos de alimentación saludables.**
- ・運動するのにブランドのウェア**なんか**必要ないんじゃない？ **¿No crees que no hace falta ropa de marca para hacer deporte?**

Comprender leyendo

5. **なんだか体調がよくないと友人に話したところ、……健康食品をすすめられた。** Pues resulta que al contarle a un amigo que no me encontraba bien, me ha recomendado una alimentación saludable.

Cuando queremos expresar el motivo de algo, utilizamos la expresión 「Vたところ」. La frase que va a continuación es la conclusión a la que ha llevado ese motivo. Se puede utilizar en el mismo contexto la forma 「Vたら」, pero en el caso de 「Vたところ」 se utiliza más como expresión escrita.

- ・医者に**相談したところ**、もう少し体重を減らすように言われた。 **Al consultarle a mi médico, me recomendó perder un poco más de peso.**
- ・お酒とタバコを**やめたところ**、体調がよくなってきた。 **En el momento en que dejé el alcohol y el tabaco, poco a poco me fui encontrando mejor.**

- ・水泳を**始めたところ**、肩こりがなくなった。 En cuanto comencé a hacer natación se me quitó el dolor de hombros.
- ・友人にすすめられて漢方薬を**飲み始めたところ**、病気が治った。 Cuando comencé a tomar la medicina tradicional china que me recomendó un amigo, se curó mi enfermedad.

6. それ、マルチ商法**っぽい**ね。 Eso parece marketing multinivel, ¿no crees?

Cuando queremos juzgar algo que hemos visto u oído, empleamos la estructura 「～っぽい」。 Tiene el mismo significado que 「みたいだ」, pero es mucho más informal. Es una expresión que se utiliza cuando no podemos afirmar algo rotundamente, y queremos dar una respuesta ambigua.

- ・あの薬を飲み続けるだけで若返るなんて、**ちょっとそっぽい**ね。 Eso de rejuvenecer tan sólo con seguir tomando esa medicina, parece mentira, ¿no crees?
- ・昨日買ったサプリメント、ダイエットには**効かないっぽい**。 Los suplementos vitamínicos que compré ayer no parecen tener efecto dietético.
- ・このサッカーウェア、**ちょっとにせものっぽい**ね。 Este uniforme de fútbol tiene pinta de falso, ¿no te parece?
- ・明日のマラソン大会で完走するのは**無理っぽい**。 Me parece que va a ser imposible completar la maratón mañana.

7. (ゲンキニールは)効き目が**ないわけじゃない**けど、…… No es que el “Genkiniil” no haga efecto, pero...

Cuando queremos negar algo de manera suave, empleamos la estructura 「～わけじゃない」。 En frases que implican una negación pero con un contenido afirmativo como 「時間があるわけじゃない」 (No es que tenga tiempo), las podemos entender como una afirmativa suave: “no puedo decir claramente que tenga tiempo”. Por otro lado, la frase negativa 「時間がないわけじゃない」 (No es que no tenga tiempo), la podemos entender como “no puedo negar completamente que no tenga tiempo”, igualmente como una negativa suave. En cualquiera de los casos nos encontramos con una postura un poco ambigua. Utilizamos la estructura 「V (forma simple) + わけじゃない」, 「adjetivo-I い + わけじゃない」, 「adjetivo-NAな + わけじゃない」。 Por último, su estructura en lenguaje formal sería 「わけではない」.

- ・毎日、野菜を食べるようにしています。**好きなわけじゃない**ですけど。 No es que me gusten demasiado las verduras, pero intento comerlas todos los días.
- ・スポーツは**嫌いなわけじゃない**けど、つい億劫になってしまって、……。 No es que no me gusten los deportes, pero me ha terminado dando una pereza...
- ・ストレスが**あるわけじゃない**が、最近、疲れ気味だ。 No es que esté especialmente estresado, pero últimamente me siento cansado.
- ・お金が**ないわけじゃない**が、あまりレストランでは食事をしないようにしている。 No es que no tenga dinero, pero procuro no comer demasiado en restaurantes.

8. そんなの**飲むくらいなら**、その**分いいメシを**食べ。 Si vas a beber algo así, al menos toma una buena comida en la misma medida.

Cuando hay algo que nos parece mal y lo queremos comparar con otra cosa, utilizamos la estructura 「V (forma diccionario) + くらいなら、～」。 Utilizamos esta estructura cuando el hablante opina que hay algo que no le gusta y no quiere hacer (en la primera cláusula) y en su lugar expresa enfáticamente que prefiere hacer otra cosa (en la segunda cláusula). A veces en la segunda cláusula aparece alguna expresión que no es realista o bien una metáfora, para dar más énfasis a cuanto desagrada el contenido de la primera cláusula. En la segunda cláusula suelen aparecer estructuras comparativas como 「～たほうがいい」 o bien 「～たほうがマシだ」.

- ・そんなに苦い薬を**飲むくらいなら**、死んだほうがマシだ。 Prefiero morir antes de tener que tomar una medicina tan amarga.
- ・ランニングで足を**痛めるくらいなら**、もう走らないほうがいい。 Si voy a estropear las piernas corriendo, es mejor no correr más.

- ・甘いものを我慢するくらいなら、ダイエットはしないつもりだ。 Si tengo que dejar de comer dulces, no tengo intención de hacer dieta.
- ・高い健康食品を買うくらいなら、高級レストランで食べたいと思う。 Si compramos alimentos saludables costosos, prefiero comer en un restaurante de lujo.

Rincón lingüístico-cultural para hispanohablantes

1. Usos de la partícula final 「～かな」

En el T3 (parte cuatro) de este libro hemos estudiado la expresión 「本当に効くのかな?」 (¿tendrá efecto realmente?). Este 「～かな」 que se añade en la parte final de la oración es conocida como partícula final. En el caso del japonés, estas partículas finales desempeñan un papel muy importante para hacer que la comunicación sea fluida y suave. Sin embargo, para los estudiantes de japonés es bastante difícil distinguir en qué contextos hay que utilizarla, y no hay que considerarla como una partícula en su significado literal, sino comprender cómo hay que emplearla dentro de la comunicación, y saber cuál es su uso específico. La partícula final 「～かな」 se utiliza con normalidad para expresar una duda, como podemos observar en los siguientes ejemplos:

- ・にんじんを食べれば、本当に目が良くなるのかな? ¿Realmente mejorará la vista el comer zanahorias?
- ・肩こりって、毎日ストレッチすれば治るのかな? ¿Se me curará el dolor de espalda si hiciera estiramientos todos los días?

Los usos de la partícula final 「～かな」 se pueden clasificar de la siguiente manera:

1	Petición / solicitud	それ持ってきてもらえないかな ¿Te importaría traerme eso, por favor?
2	Voluntad	私はコーヒーにしようかな Creo que yo voy a tomarme un café tal vez.
3	Deseo	明日天気にならないかな ¿Hará buen tiempo mañana?
4	Duda	あの人、独身かな ¿Esa persona estará soltera?
5	Pedir una opinión / criterio	こういう書き方でいいのかな ¿Estará bien escrito así?

Bibliografía de referencia: SHIRAYAMA, SHIHO (2015) – “The usage of sentence ending "kana" in natural conversations.” Rikkyo Japanese Language Education Practice Research Congress, Journal of the study of Japanese language education practice, N.2, P.68-79

2. Métodos saludables

En el caso de Japón, los métodos saludables más tradicionales son el “Rajjo taisou” (ejercicios gimnásticos que se retransmiten por la radio), aikido, judo, masajes con toalla (seca o bien mojada en agua fría), masajes en general, masaje para pies con bambú, onsen (aguas termales), zazen (meditación), entre otros, pero últimamente en la televisión y anuncios llaman la atención las medicinas, complementos alimenticios, alimentos saludables, objetos para relajarse, métodos anti-estrés y métodos anti-edad. A continuación expondremos algunos ejemplos comentados en la red:

1) 朝バナナダイエット La dieta del “plátano matutino”

Método dietético consistente en cambiar el desayuno por comer plátano por la mañana. Tuvo un gran éxito debido a que es fácil de hacer incluso por aquellas personas que estén ocupadas. El precio de los plátanos es bastante asequible y tienen muchas vitaminas, fibra y nutrientes. No hace falta preocuparse por tener un desbalance nutritivo, ya que las otras comidas suplementan el restante. Sin embargo, para que tenga efecto hay que limitar la ingesta en uno o dos plátanos al día como mucho.

Cada plátano tiene unas 100 calorías aproximadamente, así que si se consume en exceso puede terminar con el efecto contrario. La ventaja más grande de esta dieta es que la puede realizar cualquiera y, de hecho, se recomienda para aquellas personas que no tengan mucho tiempo por las mañanas.

2) ごぼう茶 Té de bardana

El Té de bardana es un té con grandes propiedades para la salud que cada vez tiene más adeptos. En la bardana podemos encontrar muchos beneficios para la salud como la fibra alimentaria (tan soluble como insoluble), vitamina B1, B2, calcio, potasio, polifenol, saponina e inulina. Todos estos nutrientes son muy efectivos para el efecto anti-edad, la hinchazón y el frío. Igualmente es bueno para la prevención de enfermedades, tiene efectos dietéticos y es muy conocido por tener activos para una piel bonita. Hay casos de gente que dice haber rejuvenecido veinte años por haber tomado de forma continua dicho té. Es un método saludable bastante accesible al tratarse de té.

3) ホットヨガ Hot Yoga

Actualmente está muy de moda entre las mujeres este tipo de yoga. Comenzó a ser conocido a través de su éxito entre las celebridades y personajes famosos. La razón por la que causa sensación es porque tiene un efecto más dietético que el yoga tradicional. Consiste en realizar las posturas del yoga en una estancia que se encuentra a unos 40 °C y una humedad del 55%, como si se estuviesen realizando los ejercicios en una sauna. Entre sus ventajas se encuentra la mejora de la circulación sanguínea, la reducción del estreñimiento, la ayuda con los dolores de espalda y óseos, reducción de estrés, reduce la hinchazón y el cansancio, pero su característica principal es su función “detox” (limpieza de toxinas internas). Igualmente, al aumentar rápidamente la temperatura corporal, el cuerpo se vuelve más flexible rápidamente, lo que hace que sea un método fácil de seguir hasta por los principiantes.

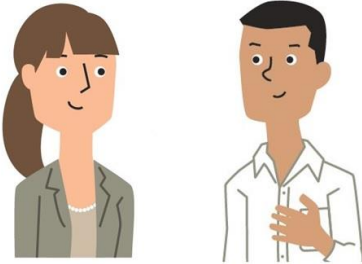
3. Diversos métodos saludables

Además de los métodos de moda que hemos expuesto anteriormente, se conocen otros métodos como: la risoterapia, el método “skinship”, “positive thinking”, “el método de elogiar”, etc. Uno de los motivos actuales de las enfermedades que es el estrés. Este se puede reducir riendo. Igualmente, el hecho de reír es bueno desde el aspecto médico, ya que ejercita el sistema nervioso autónomo, estando demostrado que mantiene la salud. Por otro lado, el albergar sentimientos negativos aumenta el estrés, así que el “positive thinking” (pensar positivamente) en nuestro día a día está demostrado que conlleva a una gran cantidad de efectos positivos en nuestro organismo. En el caso del “skinship” (nivel de intimidad), funciona de una manera positiva para el individuo, ya que cura el sistema nervioso del cerebro, haciendo que se segreguen tres tipos de hormonas positivas para la felicidad. Por otro lado, el “método de elogiar” es conocido por ser uno de los métodos saludables para la mente. Se comienza elogiándose uno mismo, después a la familia y a nuestro entorno. Si esta acción se realiza desde lo más profundo de nuestro corazón se segregan endorfinas que proporcionan esperanza y fuerza para vivir. Estos métodos saludables se podrían considerar de los más accesibles, seguros y económicos, y que pueden ser llevados a cabo por cualquiera con tan sólo cambiar un poco nuestras costumbres o estilo de vida diario, generando resultados positivos.

トピック4

舞台を見るなら Si vas a ver una representación...

うん、でも、せっかく来たんだから、買っていきましょう。



オペラのプログラム、けっこう高いですね。

Entablar una conversación

Can-do Ser capaz de ofrecer información detallada y contestar a preguntas sobre programación de obras de teatro, formas de reservar entradas, modales para acudir a la sala y cómo disfrutar.

FORMA	USO
<ol style="list-style-type: none"> 1. せっかくドイツに来てるんだから、ドイツのオペラのほうがいいかなあ。 せっかくだから、ネクタイぐらいして行かれれば、……楽しめると思いますよ。 2. こういうのはやっぱり地元のものを見るにかぎりますよね。 3. 紙のチケットを受け取るかわりに、……印刷して持って行けば、そのまま使えるんですよ。 4. 若い人なんか、けっこうラフな格好の人もありますよ。 	<ul style="list-style-type: none"> • Decir que se aprovecha una oportunidad. • Decir lo que uno piensa que es lo mejor. • Proponer otras opciones. • Ofrecer un ejemplo.

Comprender leyendo

Can-do Leer un texto relativamente largo que use palabras del mundo del espectáculo y ser capaz de comprender su contenido.

FORMA	USO
<ol style="list-style-type: none"> 5. 合格するには、専門のスクールに通って、バレエとか歌とかやらないと、まず無理ですね。 6. 若いうちに将来有望と注目された人が、長い間努力してやっとなれるのがトップスターなんです。 7. あなたがトップスターになれるかどうかなんて、誰にもわかりません。 8. 本気でなりたいたんなら、こんなところで質問している場合じゃないと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> • Expresar un objetivo. • Expresar el significado de “durante un estado o situación”. • Expresar duda entre afirmación y negación. • Decir que se cese con lo que se está haciendo ahora y proponer que se haga algo distinto.

Entablando una conversación

1. せっかくドイツに来てるんだから、ドイツのオペラのほうがいいかなあ。Ya que has venido a Alemania, ¿no será mejor una ópera alemana?

せっかくだから、ネクタイぐらいして行かれれば、……楽しめると思いますよ。Ya que tiene la oportunidad, si por lo menos va con corbata,... creo que disfrutará.

「せっかく」 significa que “ya que es una oportunidad poco frecuente, hay que aprovecharla sin falta”. Cuando nos referimos a aprovechar una oportunidad para proponer algo o expresar un deseo, se utiliza la expresión 「せっかく(～ん)だから、……」。En la oración previa se explica la situación con la forma 「～んだから」 y en la siguiente oración se transmite en concreto lo que se hace para aprovechar esa oportunidad.

・せっかくスペインにいるんだから、フラメンコショーを見ませんか。Ya que estamos en España, ¿por qué no vemos un espectáculo de flamenco?

- ・せっかくチケットをもらったんだから、行きましょうよ。 Ya que nos han dado las entradas, vamos a ir.
- ・せっかく学生割引になるんだから、入りましょう。 Ya que tenemos un descuento por ser estudiantes, vamos a entrar.

Se puede usar también directamente 「せっかくだから、……」, omitiendo la oración previa que explica la situación.

- ・せっかくだから、歌舞伎座へ行ってみたいです。 Ya que tengo la oportunidad, me gustaría ir al Kabuki.
- ・せっかくだから、一番いい席にしましょうよ。 Ya que tenemos la oportunidad, vamos a sentarnos en el mejor asiento.

2. こういうのはやっぱり地元のものを見るにかぎりますよね。Cosas así, lo mejor es ver lo típico de cada sitio.

「～にかぎる」 significa “lo mejor es …”. Se usa con frecuencia para manifestar una opinión o hacer una recomendación, cuando queremos expresar que no hay nada que supere a algo o un sentimiento de que algo es lo máximo. Se utiliza con las estructuras 「V (forma diccionario) +にかぎる」, 「N+にかぎる」 y también se puede utilizar 「Vない+にかぎる」,

- ・フラメンコは生で見るとかぎるよね。 El flamenco, lo mejor es verlo en directo.
- ・日本映画はやっぱり時代劇にかぎります。 Lo mejor del cine japonés es, sin duda, el género de samuráis.
- ・初めてのクラシックバレエなら「白鳥の湖」にかぎるでしょう。 Si ves por primera vez un ballet, tiene que ser El Lago de los Cisnes.

3. 紙のチケットを受け取るかわりに、……印刷して持って行けば、そのまま使えるんですよ。En lugar de recoger las entradas en papel, ... si las llevas impresas, las puedes usar tal cual.

Se usa 「～(の)かわりに」 cuando se ofrecen opciones diferentes, en lugar de la persona, objeto o acción original. Posee el significado de llevar a cabo algo “en representación de...” o “como alternativa a...”. La estructura consiste en 「V(forma diccionario) +かわりに」 o 「Nの+かわりに」.

- ・天気がいいので、映画へ行くかわりに、散歩でもしませんか。 En lugar de ir al cine, ya que hace buen tiempo ¿por qué no damos un paseo?
- ・たまには洋服のかわりに、着物で出かけましょうよ。 Para variar, en lugar de un traje occidental, vamos a salir con kimono.

También se puede usar 「かわりに～」 sin emplear verbos ni sustantivos.

- ・山田さんが来られないので、かわりに木村さんに来てもらいましょう。 Ya que el Sr. Yamada no puede venir, en su lugar pidamos que venga el Sr. Kimura.
- ・S席は残念ながら売り切れでした。かわりにA席にしたけどいいですか？ Por desgracia, los asientos de platea se habían vendido todos. En su lugar compramos de anfiteatro, ¿qué te parece?

4. 若い人なんか、けっこうラフな格好の人もありますよ。Por ejemplo, hay también jóvenes que van con una pinta bastante informal.

Se utiliza 「Nなんか」 cuando se menciona a cierta persona u objeto para poner un ejemplo. Se puede sustituir también por 「たとえばNとか」. 「など」 también tiene el mismo significado, pero 「なんか」 es una expresión más coloquial e informal.

- ・ライオンキングなんかどうですか。大人も子供も楽しめますよ。 Por ejemplo, ¿qué te parece “El Rey León”? Pueden disfrutar tanto niños como adultos.
- ・プロを目指す人なんか、毎日6時間以上レッスンするらしいですよ。 Por ejemplo las personas que aspiran a ser profesionales, se dice que toman clases más de 6 horas cada día.
- ・田中さんなんか、もうこの映画を20回もみたそうですよ。 Por ejemplo el Sr. Tanaka, parece que ha visto ya esta película tanto como 20 veces.
- ・能なんか、けっこう外国でも人気があるんですよ。 El Teatro Nô, por ejemplo, es también bastante popular en el extranjero.

En el T3 aparece también la estructura 「Nなんか」, pero ya que la forma de usarla es diferente, vamos a comparar ambas.

・ウイスキーなんか体に悪いよ。 Mira que el Whiskey es malo para la salud. (Estructura del T3). Se utiliza con una actitud crítica para desdeñar lo que implica el sustantivo.

・ウイスキーなんかどうかな? ¿Qué tal por ejemplo un Whiskey? (Estructura del T4). En este caso está ofreciendo algo entre otras opciones, pero no implica una postura crítica.

Comprender leyendo

5. **合格するには、専門のスクールに通って、バレエとか歌とかやらないと、まず無理ですね。 Para aprobar, está claro que sería imposible sin ir a una escuela especializada y sin practicar ballet y canto.**

「VIには」 expresa un objetivo y tiene el mismo significado que 「Vためには」。 En la frase posterior se menciona, por ejemplo, qué es lo que se podría o se debería hacer para alcanzar ese objetivo. La estructura consiste en 「V(forma diccionario) + には」.

・一流のダンサーになるには、一度は海外で勉強するべきだと言われています。 Para llegar a ser una bailarina de primer nivel, se dice que hay que estudiar al menos una vez en el extranjero.

・歌舞伎を見るには、日本語がわからないといけませんか。 ¿Es necesario saber japonés para ver el teatro Kabuki?

・人気作品のチケットを買うには、朝早く並んだほうがいいですよ。 Para comprar una entrada de una obra de éxito, es mejor que hagas cola por la mañana temprano.

・有名になるには、才能だけじゃだめなんですね。 Para hacerse famoso, ¿verdad que no es suficiente sólo con el talento?

6. **若いうちに将来有望と注目された人が、長い間努力してやっとなれるのがトップスターなんです。 Las superestrellas son las personas que durante su juventud atraían la atención por su futuro prometedor y, después de un largo tiempo de esfuerzo, por fin lo han conseguido.**

「～うちに」 significa "mientras dura la situación de...". Expresa que, antes de cambiar una situación determinada, sucede algo o se hace que algo termine. Se forma con las siguientes estructuras: 「V(forma diccionario) + うちに」, 「Vている + うちに」, 「Vない + うちに」, 「adjetivo-い + うちに」, 「adjetivo-NAな + うちに」, 「Nの + うちに」.

・日本にいるうちに、ぜひ吉本新喜劇を見てください。 Mientras estés en Japón, ve sin falta a ver Yoshimoto Shinkigeki.

・両親の気が変わらないうちに、宝塚音楽学校の入学を申し込んだ。 Antes de que mis padres cambien de opinión, he presentado una solicitud de ingreso en la Escuela de Música de Takarazuka.

・朝早くうちにに列に並ばないといけません。 Por la mañana temprano hay que hacer cola.

・空気が新鮮うちに、朝のレッスンをして体調を整えます。 Mientras dura el aire fresco realizo la práctica de la mañana para ponerme en forma.

・学生のうちに一生懸命勉強しないと後悔しますよ。 Si no estudias con todas tus fuerzas mientras eres estudiante te arrepentirás.

「～うちに」 se parece mucho a 「～あいだに」, pero 「～うちに」 tiene el matiz de que solamente se puede hacer algo durante ese periodo, mientras que 「～あいだに」 no tiene esa limitación. Comparemos las siguientes frases y comprobemos la forma de usar estas estructuras.

・○日本にいるうちに、山田さんの家を訪ねたい。 Mientras estoy en Japón quiero visitar la casa del Sr. Yamada. (Visitar la casa del Sr. Yamada tiene que ser solamente mientras se está en Japón).

・○日本にいるあいだに、山田さんの家を訪ねたい。 Mientras estoy en Japón quiero visitar la casa del Sr. Yamada.

・X日本にいるうちに、カバンをなくした。 (Esta frase es incorrecta, porque en este caso no se puede usar 「…うちに」, ya que el hecho de perder el bolso no tiene que ser necesariamente mientras se está en Japón, se puede perder el bolso en cualquier lugar).

・○日本にいるあいだに、カバンをなくした。 Perdí el bolso cuando estaba en Japón.

7. あなたがトップスターになれるかどうかなんて、誰にもわかりません。 Nadie sabe si podrás o no convertirte en una super estrella.

「～かどうか」 tiene el significado de 「～であるか、～でないか」. Se usa cuando se tienen dudas o no se puede decidir entre afirmar o negar algo. La estructura es 「F en forma simple+かどうか」.

- ・この作品は読んだことがあるかどうか、はっきりと覚えていません。 No recuerdo bien si he leído o no esta obra.
- ・映画が始まったかどうか、窓口の人に聞いてみましょう。 Preguntémosle a la persona de la ventanilla si ha empezado o no la película.
- ・明日もコンサートがあるかどうかわかりますか。 ¿Sabes si mañana hay o no también concierto?
- ・面白いかどうかわからないけど、せっかくチケットがあるんだから、行ってみましょう。 No sé si será interesante o no, pero ya que tenemos las entradas, vayamos.

En el caso de la forma afirmativa del no-pasado, tanto del sustantivo como del adjetivo-NA, se omite 「だ」.

- ・きれいかどうか、見てみないとわからないよ。 Si no lo veo no sé si me gustará o no.
- ・主役かどうか知らないけど、今度有名な舞台に出演するそうだよ。 No sé si será o no en un papel principal, pero parece que saldrá próximamente en una obra famosa.

8. 本気でなりたいたったら、こんなところで質問している場合じゃないと思います。 Si quieres ir en serio, creo que no es el momento de hacer preguntas en un lugar como éste.

「～Vて(いる)場合じゃない」 significa que “no es apropiado hacer... en este momento” o “no se dan las circunstancias para ello”. Expresa un sentimiento que insinúa que se debe dejar lo que se está haciendo inmediatamente y que habría otras cosas más importantes que se deben hacer. Se usa con frecuencia para aconsejar y para darse ánimos a uno mismo.

- ・もう11時よ、テレビを見ている場合じゃないでしょう。早くお風呂に入って寝なさい。 Ya son las once, no es el momento de estar viendo la televisión. Date un baño enseguida y duérmete.
- ・自分の将来のことで迷っている場合じゃない。自分の決めた道をまっすぐに進むべきだ。 No es momento de dudar acerca de tu propio futuro. Debes avanzar en línea recta por el camino que has decidido.
- ・ポップコーンを買っている場合じゃないよ、映画はもう始まるよ。 No es el momento de comprar palomitas, la película ha empezado ya hace 10 minutos.
- ・明日は試験だ。酒を飲んでる場合じゃないな。勉強しよう。 Mañana es el examen. No es momento de beber alcohol. Voy a estudiar.

Rincón lingüístico-cultural para hispanohablantes

1. Artes escénicas tradicionales de Japón

1) El Nogaku es un teatro clásico compuesto del Noh y del Kyogen. El Noh es un tipo de teatro muy refinado con música y baile que utiliza máscaras, de gran fuerza dramática y cuyo tema principal son los fenómenos sobrenaturales. El personaje principal (*Shite-kata*) interpreta papeles de diversas edades, sexos y atributos utilizando diferentes máscaras. Debido a que en cada época los señores feudales eran aficionados al Noh, ha venido perdurando durante más de 600 años. Por otro lado, el Kyogen se basa fundamentalmente en historias cómicas de sátira social, con gran presencia de elementos de imitación y bufonadas. Por este motivo tuvo gran aceptación entre el pueblo, siendo llamado “el arte de la risa”. El Nogaku constituye una de las tres grandes artes escénicas tradicionales japonesas junto con el Kabuki y el Bunraku, habiendo sido reconocido por la UNESCO

como patrimonio cultural inmaterial y recibiendo, actualmente, grandes elogios incluso en el extranjero.

2) El Kabuki es un teatro popular que se desarrolló y tomó forma en la época Edo, pero sus orígenes se dice que se remontan a principios del S. XVII, con el denominado “*Kabuki Odori*” de Izumo no Okuni. Era interpretado en su origen por mujeres, aunque desde aproximadamente mediados del S.XVII comenzó a ser representado por hombres. El Kabuki es popular también entre los turistas extranjeros ya que las representaciones tienen lugar casi todos los días y además cuentan con una guía sonora en otros idiomas. Se puede disfrutar de él en muchos puntos de Japón, como por ejemplo en el Kabuki-za de Ginza (Tokio), en el Shochiku-za de Osaka, en el Misono-za de Nagoya, o en el Hakata-za de Fukuoka.

3) El Bunraku nace a principios de la época Edo y consiste en un arte que engloba tres técnicas: *Joruri-katari*, *Shamisen* y *Ningyo-tsukai*. El artista de *Joruri-katari* se encarga él solo de describir la escena, narrar el trasfondo de la historia, así como de recitar el guion de todos los personajes, mientras que el *Shamisen* esboza mediante su música los sentimientos, el entorno, etc. En cuanto al *Ningyo-tsukai*, un único muñeco de Bunraku es manejado por tres personas, sincronizando sus mentes en una sola. Se consigue así expresar los delicados movimientos y sentimientos de un auténtico ser humano.

4) El Rakugo es un tipo de arte del monólogo que se estableció en la época Edo. Posee un contenido humorístico que termina siempre con un *ochi* o gracia. A diferencia de otras artes escénicas tradicionales, no depende del escenario, el vestido o la música, sino que una sola persona interpreta a varios personajes. Su peculiar técnica interpretativa se sirve de gestos con el cuerpo y las manos para avanzar en la historia, utilizando para expresarse diversos pequeños objetos, como pañuelos o abanicos. En la actualidad, los artistas de Rakugo desarrollan su actividad de manera amplia, no solo en los *yose* o salas de Rakugo, sino también en la radio, la televisión o en espectáculos nocturnos.

2. Teatro japonés contemporáneo

1) La compañía de teatro de Takarazuka fue fundada en 1914 y está compuesta únicamente por mujeres solteras, lo que la convierte en una compañía poco frecuente. Sus integrantes son llamadas “takarasienne” y consisten en un selecto grupo elegido de entre las diplomadas de la Escuela de Música de Takarazuka, en la prefectura de Hyogo. Bajo el lema de “puro, correcto y hermoso” no hacen pública jamás ni su edad ni su nombre auténtico, abandonando la compañía cuando se casan y siendo conocidas por su estricta disciplina. Se trata de un entretenimiento rutilante a base de canto, baile e interpretación, siendo también de destacar sus vistosos trajes y maquillaje, así como un lujoso despliegue escenográfico.

2) Yoshimoto Shinkigeki es una de las mejores compañías de comedia de Japón y sus actuaciones se realizan por artistas pertenecientes a la Agencia Creativa Yoshimoto. Día tras día se llevan a cabo representaciones en su cuartel general de Osaka, el teatro Namba Grand Kagetsu, aunque también se puede asistir a alguna de sus giras por diversos puntos de Japón. Si nos referimos a su programa de televisión semanal Yoshimoto Shinkigeki, todo el mundo sería capaz de tararear su tema principal “*funwaka pappu, funwaka pappu*”, siendo un programa muy querido y de gran difusión por las salas de estar de las casas japonesas.

地元のニュース Noticias locales

昨日の夜、近くの工場で火事があったそうですよ。新聞によると、けが人も出たそうです。



え、そうなんですか？
そのせいで、夜、消防車がたくさん来ていたんですね。

Entablar una conversación

Can-do Poder explicar con cierto grado de detalle las circunstancias y causas de un accidente del que hemos tenido noticia o del que hemos sido testigos, y responder a las preguntas sobre el mismo.

FORMA	USO
1.風が 強かったせいで 、その火が大きくなって、橋のほうにまで広がったらしいです。 2.ニュースによると、工場は全部燃えて、けが人も10人以上出たそうですよ。 3.通行止めは3週間ぐらいで 解消される見込み だと言ってました。 ★火事 だそうです よ。橋はとりあえず簡単に修理して、車だけは通れるようにするらしいですよ。	・Indicar una causa ・Citar la fuente de una información ・Hacer una predicción sobre el futuro ・Contar algo que hemos oído

Comprender leyendo

Can-do Poder leer una noticia y comprender el contexto y los puntos principales del suceso del que trata.

FORMA	USO
4.日本に関するコラムなどを発信している。 5.外国人の日本旅行 といえば 、有名観光地、伝統文化、日本料理やショッピングなどが定番だった。 6.外国人観光客 に対して 、新たな日本の魅力を伝えている。 7.有名観光地の情報は もちろん 、……穴場スポットの情報 も 配信される。	・Presentar algo como tema ・Dar un ejemplo típico ・Expresar el objeto de algo ・Expresar que hay algo más aparte de lo mencionado

Entablando una conversación

1. 風が強かったせいで、その火が大きくなって、橋のほうにまで広がったらしいです。 Al parecer, el incendio se avivó y se propagó hasta el puente a causa del viento.

そのせいで、あんなに渋滞してたんですね。 Por eso se formó tal atasco.

La expresión 「～せいで」 sirve para indicar por qué ha sucedido algo, es decir, para indicar una causa. El patrón básico es 「causa + seいで、efecto」. Las fórmulas que adopta son 「V (forma simple) + seいで」, 「adjetivo-い／かった + seいで」, 「adjetivo-NAな／だった + seいで」 y 「Nの + seいで」.

- ・**転んだせいで**、足を骨折したんだそうです。 *Por lo visto, se rompió una pierna a causa de una caída.*
- ・利用者のマナーが**悪いせいで**、ごみを捨てるのにお金を払わなくちゃいけなくなるらしいです。 *Parece que, por culpa de las conductas indebidas de los usuarios, tendremos que pagar por tirar la basura.*
- ・手続きが**複雑なせいで**、この制度を利用する人はあまりいないそうですよ。 *Por lo visto, la gente que utiliza este sistema es muy poca, ya que el procedimiento es complejo.*
- ・トンネルの**事故のせいで**、道路が渋滞しています。 *Se ha formado un atasco en la carretera debido a un accidente en el túnel.*

La construcción 「causa+せいで」 también puede tomar la forma 「そのせいで」. Empleamos esta fórmula para indicar que una noticia que nos han contado es la causa de que ocurriera algo más.

・A: 昨日、コンビニに強盗が入ったんだって。 **Por lo visto, ayer atracaron la tienda de conveniencia.**

B: ああ、**そのせいで**、たくさんのパトカーが来ていたんですね。 ¡Ah! ¡Por eso había tantos coches de policía!

2. ニュースによると、工場は全部燃えて、けが人も10人以上出たそうですよ。 Según las noticias, la fábrica ardió completamente y hubo más de 10 heridos.

Empleamos la expresión 「～によると」 para citar la fuente de la información que queremos presentar. Para usarla, se utiliza la estructura 「NIによると」.

・**新聞によると**、昨日、橋の下にあった工場が火事になったそうですよ。 **Según el periódico, ayer se incendió la fábrica que estaba debajo del puente.**

・**天気予報によると**、明日から寒くなるそうです。 **Según la previsión meteorológica, comenzará a hacer frío a partir de mañana.**

・**このブログによると**、マドリッドに「ねこカフェ」があるそうですよ。 **De acuerdo con este blog, en Madrid hay un “neko café”.**

・**山田さんの奥さんによると**、中川さん、仕事でイギリスに引っ越しですって！ **¡Según la esposa del Sr. Yamada, el Sr. Nakagawa se va a mudar al Reino Unido por trabajo!**

3. 通行止めは3週間ぐらいで解消される見込みだと言ってました。 Según lo que dijeron, en tres semanas está previsto levantar la restricción al tráfico.

Se usa la expresión 「～見込みだ」 para indicar una predicción sobre el futuro. Adopta la fórmula 「V (forma diccionario／ない)+見込みだ」. Si hemos conocido una predicción a través de las noticias, el periódico, etc., completamos la expresión 「～見込みだ」 añadiéndole detrás fórmulas tales como 「～そうです」, 「～と言っていました」 o 「～とのこと」. La estructura 「～見込みだ」 es una expresión bastante formal y por eso es frecuente escucharla en las noticias o en los anuncios oficiales.

・ニュースで、その車の新モデルは春に発売になる**見込みだ**と言っていました。 **Han dicho en las noticias que el nuevo modelo de coche saldrá a la venta previsiblemente para primavera.**

・天気予報によると、明日の気温は10度以上低くなる**見込みだ**そうです。 **Según el parte meteorológico, está previsto que mañana las temperaturas desciendan más de 10 grados.**

・今年は、このぶどうから約500本のワインができる**見込みだ**とのこと。 **Por lo visto, se prevé que este año se puedan producir 500 botellas de vino con esta cosecha de uva.**

・新しい空港は、来年の春に完成する**見込みです**。 **Está previsto que el nuevo aeropuerto esté concluido para la primavera del próximo año.**

★ 火事だそうですよ。橋はとりあえず簡単に修理して、車だけは通れるようにするらしいですよ。 Al parecer, se trata de un incendio. Por lo visto, por el momento simplemente repararán el puente y podrán circular únicamente los coches.

La fórmula 「～そうだ／そうです」 sirve para compartir con alguien una información que hayamos visto, escuchado o leído. Se construye usando la estructura 「F en forma simple+そうだ/そうです」 (ver A2-2 L14). Asimismo, podemos sustituir esta expresión por 「～らしい／らしいです」 cuando dudamos de la veracidad de la información, o bien cuando desconocemos la fuente, por ejemplo, en caso de que se trate de un rumor (ver B1-1 T5).

・駅前デパートが来月で閉店する**らしいですよ**。 **Se conoce que los grandes almacenes de delante de la estación cerrarán el próximo mes.**

・日本では今、変な歌がはやっている**らしいです**。 **Al parecer en Japón se ha puesto de moda una canción muy rara.**

5. 日本に関するコラムなどを発信している。 Publica, entre otros, artículos relacionados con Japón.

Para indicar el tema con el que está relacionado un asunto empleamos la construcción 「N1に関するN2」。 Paralelamente existe la fórmula 「N1についてのN2」, pero resulta algo más formal que la primera.

- ・留学生に日本のアニメに関するアンケートを行いました。 Hicieron entre los estudiantes de intercambio una encuesta acerca del anime.
- ・大学の図書館には、日本文化に関する本がたくさんあります。 En la biblioteca de la universidad hay muchos libros sobre la cultura japonesa.
- ・このガイドブックは、京都のお寺に関する情報が多いので、気に入っています。 Me gusta esta guía porque contiene mucha información sobre los templos de Kioto.
- ・そのサイトは、日本に関するニュースを配信しています。 Esta web publica noticias relacionadas con Japón.

6. 外国人の日本旅行といえば、有名観光地、伝統文化、日本料理やショッピングなどが定番だった。 El viaje de un extranjero por Japón incluía típicamente lugares turísticos famosos, la cultura tradicional, la comida japonesa o ir de compras.

Empleamos la fórmula 「Nといえば、～」 para presentar un tema y hablar de él. La usamos cuando queremos mencionar algo representativo, típico o muy relacionado con el tema señalado.

- ・日本の山といえば、富士山だ。 El ejemplo más típico de las montañas de Japón es el monte Fuji.
- ・冬に行きたいところといえば、温泉でしょう。 Los baños termales son el destino típico al que apetece ir en invierno.
- ・海外でよく知られている日本の観光スポットといえば、京都や広島ですね。 Cuando se piensa en lugares turísticos de Japón que sean muy conocidos en el extranjero, se nombran típicamente Kioto o Hiroshima.
- ・日本のおみやげといえば、着物や漢字が書かれたTシャツが定番だそうです。 Los ejemplos típicos de souvenirs japoneses son un kimono o una camiseta que tenga algún carácter chino escrito.

7. 外国人観光客に対して、新たな日本の魅力を伝えている。 Enseña nuevos atractivos de Japón a los turistas extranjeros.

La construcción 「Nに対して」 sirve para indicar el objeto al que se dirige una acción, ya sea este una cosa, persona o asunto. Esta expresión se parece a 「～について」 (ver A2-2 L14), que empleábamos para especificar el tema de algo. No obstante, la expresión 「～に対して」 algo o alguien que es destinatario de la acción y experimenta algún tipo de efecto.

- ・観光客に対して、公共交通機関の割引サービスが行われるようになりました。 Se ha establecido un servicio de descuento en los transportes públicos dirigido a los turistas.
- ・アンケートに回答した人に対して、温泉旅行が当たるキャンペーンをしていた。 Se organizó una campaña que sorteaba un viaje a unos baños termales entre quienes respondieran a una encuesta.
- ・旅行会社に対して意見を書いたメールを出しました。 Envié un correo en el que escribí mis opiniones con respecto a la agencia de viajes.
- ・お客様からのご質問に対してできるかぎり回答させていただきます。 En la medida de lo posible responderé a las preguntas del público.

8. 有名観光地の情報はもちろん、……穴場スポットの情報も配信される。 Difunde información sobre los lugares turísticos famosos, desde luego, y además sobre otros rincones interesantes pero menos conocidos.

La construcción 「N1はもちろん、N2も～」 sirve para indicar que hay algo más aparte de lo mencionado. Por ejemplo, con la frase 「AはもちろんBもある」 se transmite que A resulta tan obvio que se da por supuesto, pero que no es el único caso, ya que

existe también B.

・その旅館は、食事はもちろん、サービスもすばらしかった。 Naturalmente en ese *ryokan* la comida fue espectacular, pero el servicio también lo fue.

・そのパンフレットは、英語はもちろん、スペイン語でも書いてあります。 Ese folleto está escrito en inglés, evidentemente, pero también en español.

・国が違くと、言葉や文化はもちろん、考え方も違っておもしろいです。 De un país a otro cambia la cultura, naturalmente, y también la mentalidad, lo cual es interesante.

・難しい漢字はもちろん、簡単なものも読めなくて困りました。 Tuve problemas porque no sabía leer los caracteres chinos fáciles, y mucho menos los difíciles.

Rincón lingüístico-cultural para hispanohablantes

1. Medios de comunicación para informarse de la actualidad

La televisión es el medio de comunicación que más utilizan los japoneses para conocer las noticias. Así lo vuelve a confirmar una encuesta realizada en 2015 por el Ministerio de Asuntos Internos y Comunicaciones de Japón, en la que más de la mitad de los participantes señalaron la televisión como su principal fuente para mantenerse informados, independientemente de su franja de edad. El estudio, realizado en Internet, refleja también el uso de los portales digitales de noticias y los periódicos convencionales, pero estos casos estuvieron presentes solamente entre el 20 % y el 30 % de las respuestas. Por su parte, los grandes periódicos japoneses cuentan con aplicaciones gratuitas para el móvil en las que se puede tener acceso limitado a sus publicaciones. Asimismo, las principales cadenas de televisión hacen emisiones en directo a través de Internet para informar de las noticias de última hora.

El portal NHK News Web, de la emisora pública japonesa de radiotelevisión (NHK), contiene una sección de noticias de Japón redactadas en un japonés más sencillo, llamada "News Web Easy" (<http://www3.nhk.or.jp/news/easy/>). Incluye las lecturas de los caracteres chinos e incorpora además una grabación de cada noticia, así como vídeos. Resulta muy interesante leer una de estas noticias escritas en un japonés sencillo y compararla con el vídeo incluido, que trata un contenido idéntico pero dirigido a los hablantes nativos.

2. Un país donde tirar la basura cuesta dinero

Japón no es ni mucho menos el único país donde hay que pagar una tarifa por tirar a la basura ciertos objetos voluminosos, bien por su tamaño o por sus características especiales. Pero en el caso de Japón hay que destacar que tirar la basura convencional, la del día a día, también cuesta dinero. En concreto, para depositar la basura y que el servicio de recogida la retire, es obligatorio comprar las bolsas de basura acordadas por cada ayuntamiento. Estas varían según el tipo de desperdicios que vayan a alojar (desechos combustibles, no combustibles, reciclables, etc.), tienen una capacidad de 20 litros y cada paquete de 10 unidades tiene un precio de entre 300 y 400 yenes.

En Japón las calles no están equipadas con contenedores de basura en cada esquina. A cambio, hay que depositar la basura pronto por la mañana en un día y lugar determinados para que el servicio de recogida pase a buscarla. En caso de no depositarla en la bolsa correcta, lo normal es que no la retiren. Estas bolsas especiales tienen esta única finalidad y cada hogar japonés gasta más de 9000 yenes al año en adquirir las bolsas para basura combustible y no combustible.

3. Aplicaciones para móviles dirigidas a los turistas extranjeros

En 2016 la Agencia de Turismo de Japón anunció que el número de turistas extranjeros que habían entrado en el país había superado la cifra anual de veinte millones. Con el aumento de los visitantes internacionales, han proliferado las aplicaciones de viaje para móviles dirigidas a los turistas extranjeros. Estas aplicaciones responden a las inquietudes del visitante extranjero e incluyen contenidos que ayudan a los turistas a conocer mejor los atractivos de Japón, como su cultura, costumbres o historia.

1) Japan Connected-free Wi-Fi (<http://www.ntt-bp.net/jcfw/en.html>)

Dirigida a los turistas extranjeros, esta herramienta de conexiones LAN inalámbricas y públicas hace mucho más fácil tener wifi. Con un registro único y gratuito, los usuarios de la aplicación pueden conectarse cómodamente a las redes wifi gratuitas que se encuentran repartidas por todo el país. Además, también pueden informarse de la ubicación de los puntos con acceso libre a wifi: estaciones, aeropuertos, puntos turísticos... su directorio incluye un total de 9000 lugares con conexión gratuita. Cada acceso permite usar el servicio durante 3 horas, pero se puede establecer un número ilimitado de conexiones y, por lo tanto, uno puede disfrutar de acceso a Internet durante todo el día.

2) DiG JAPAN (<http://www.mapple.co.jp/digjapan/jp/>)

Esta aplicación ofrece información turística en inglés sobre los puntos de interés típicos, naturalmente, pero también sobre los lugares apartados de la ruta turística habitual, categorizados por temporada y tema. Además da la posibilidad de conseguir cupones para aprovecharse de ciertos beneficios en tiendas, restaurantes y museos. Todo ello (los mapas, la información turística o los cupones) también puede descargarse para consultarse sin necesidad de tener conexión a Internet.

3) TABIMORI (<https://www.narita-airport.jp/en/fun/app>)

Esta aplicación de bienvenida ofrece información sobre la vida diaria y cultura de Japón que puede resultar útil durante la estancia en el país. Por ejemplo, explica cómo montarse en los trenes y taxis, cómo visitar un hotel típico japonés o unos baños termales, o cómo pedir comida en un restaurante, para lo cual incluye además un menú ilustrado de platos japoneses. Aparte, contiene información tan práctica como el pronóstico del tiempo, el cambio de divisas o un buscador de rutas para desplazarse en tren. Está disponible en inglés y español, además de otros siete idiomas. Llevarla encima resulta incluso tranquilizador en caso de sufrir algún incidente, ya que incluye un directorio con el contacto de las embajadas. Además, los contenidos que se cargan en línea pueden consultarse después sin conexión a Internet.

4. 「おもてなし」

En la reunión celebrada en 2013 en la ciudad de Buenos Aires para elegir la sede de los Juegos Olímpicos de verano de 2020, la presentación de Tokio estuvo marcada por la palabra *omotenashi* y, desde aquel discurso, este concepto ha ganado fama internacional. Con este término se hace referencia al sentido de hospitalidad y consideración para con los demás, tan intrínseco de la cultura japonesa. En muy poco tiempo, la palabra se ha puesto de moda en Japón y hasta el Gobierno la ha empleado en las campañas turísticas y sus políticas nacionales. La expresión ha penetrado de tal manera en la sociedad que ya es una palabra clave en el sector servicios, incluido el turístico.

これが欲しい！ ¡Quiero esto!



Entablar una conversación

Can-do Ser capaz de explicar con cierto detalle las características y las razones por las que uno quiere un determinado producto.

FORMA	USO
1. たこ焼き器、 買ってきてもらえない？ 「たこピック」っていうのも、いっしょに 買ってきてもらってもいい？ 2. でも、たこ焼き器は さすが にこっちは売ってないから。 3. でも、 たこ焼き器 って 言っても 、いろいろ種類あるんじゃない？	<ul style="list-style-type: none"> • Encargar algo. • Expresar algo que se puede deducir de manera lógica a partir de las circunstancias. • Añadir información.

Comprender leyendo

Can-do Leer las opiniones sobre un producto en una tienda online y ser capaz de comprender los puntos positivos y negativos.

FORMA	USO
4. 難点は、 高温になるぶん 、消費電力が大きいこと。 5. たこ焼きを 焼いている間 、ほかの電気製品が使えず…。 6. 調理中にプレートが傾いて、 やけどしそうになりました 。 7. ラッピングも してくれると のこと で お願いしましたが、……	<ul style="list-style-type: none"> • Expresar la intensidad y los motivos. • Expresar una situación en la que la acción es continua. • Expresar que se pensaba que algo sucedería pero no fue así. • Transmitir algo que se ha leído o escuchado.

Entablando una conversación

1. たこ焼き器、買ってきてもらえない？ ¿Me puedes comprar una plancha para hacer takoyaki?

「たこピック」っていうのも、いっしょに買ってきてもらってもいい？ ¿Te importaría comprarme también a la vez un pincho para takoyaki?

Cuando encargamos algo que queremos a alguien, usamos las expresiones 「Vてもらえない」「Vてもらって(も)いい」。No existe una gran diferencia entre ambas, pero en el caso de la segunda 「～もらって(も)いい」 se trata de una expresión más o menos nueva, por lo que puede resultar algo extraña para algunas personas, aunque es utilizada con mucha frecuencia. Cuando el encargo se realiza de manera más formal usamos las expresiones de cortesía 「Vていただけませんか」 y 「Vていただいてもよろしいでしょうか」.

・日本に行くなら、日本語の本、**買ってきてもらえない？** Si vas a Japón, ¿me podrías comprar un libro de japonés?

・かき氷器が欲しいんだけど、どこで売ってるか**検索してもらえない？** Quiero una máquina para hacer kakigôri, pero ¿podrías buscar por Internet dónde se vende?

・空港の免税店で、ブランドの化粧品、**買ってきてもらってもいい？** ¿Te importaría comprarme cosméticos de marca en la tienda de Duty Free del aeropuerto?

・ネット通販で買ったバッグ、返品できるかどうか電話で聞いていただけませんか？ ¿Te importaría preguntar por teléfono si se puede devolver el bolso que compré por Internet?

2. **でも、たこ焼き器はさすがにこっちじゃ売ってないから。Pero es que en un lugar como éste, es imposible que se vendan planchas de takoyaki.**

「さすがに(～ない)」 sirve para expresar aquello que se puede prever a partir de una situación, y aquí es utilizado en un sentido negativo con el significado de “es imposible”, “me rindo”, “(como pesa mucho) es imposible de transportar”, “(como estamos en el extranjero) es imposible que se venda”, etc. Sin embargo, también existe una forma que implica un valor positivo, como por ejemplo en 「さすがによく切れる」 (Como era de esperar, corta bien).

・絶版になってたマンガ、古本屋で見つけたんだけど、プレミアムついて50,000円だって。これじゃ、さすがに買えないなあ。 Encontré en una librería de segunda mano el manga que se había dejado de publicar, pero dicen que cuesta 50.000 yenes por ser un producto premium. Así es imposible que lo compre.

・炊飯器、買って帰りたいんだけど、さすがに大きすぎて持って来られなかったよ。 Quería volver habiendo comprado una arrocera, pero fue imposible traerla porque era demasiado grande.

・もうそんなに若くないから、さすがにピンクの浴衣は着られないな。 Ya no soy tan joven, así que no va a poder ser que me vista con un yukata rosa.

・日本で買った時計は、さすがに性能がいいよ。 Como era de esperar, el reloj que compré en Japón es de buena calidad.

3. **でも、たこ焼き器って言っても、いろいろ種類あるんじゃない？ Pero, hablando de planchas de takoyaki, ¿no hay varios tipos?**

「～って言っても、～」 es una expresión que añade información, pero como usa 「ても」, esta tiene un cierto matiz opuesto. Es decir, basándose en la primera frase, la información añadida en la segunda incluye un sentido contrario. Por otra parte, 「～って言っても」 se utiliza en lenguaje hablado, mientras que para lenguaje escrito sería 「～と言っても」.

・A: 日本のお土産に、ふりかけ、買ってきてもらってもいい？ ¿Me podrías traer “furikake” como recuerdo de Japón?

B: いいよ、でも、ふりかけって言っても、いろいろな味があるよ。 Vale. Pero, hablando de “furikake”, hay de diferentes sabores.

・A: コードレス掃除機だと、掃除が快適になるって。 Si es una aspiradora sin cable, dicen que facilitan la limpieza.

B: うん、でも、快適って言っても、結局、掃除はしなくちゃならないんじゃない？ Ya, pero, aunque digan que es cómodo, de todas formas, ¿no habrá que limpiar?

・いくらドイツ製って言っても、20年前の車の修理は無理でしょう。 Por mucho que digan que es de fabricación alemana, la reparación de un automóvil de hace 20 años será imposible.

・デパートのバーゲンが始まったけど、バーゲンって言っても、あんまり欲しいものがないんだよね。 Han comenzado las rebajas en los grandes almacenes, pero aun así no hay muchas cosas que quiera comprar.

Comprender leyendo

4. **難点は、高温になるぶん、消費電力が大きいこと。El inconveniente es que la temperatura sube mucho y eso provoca que el gasto en electricidad sea grande.**

「～ぶん」 se escribe 「分」 en kanji e indica grado y cantidad. La frase del ejemplo 「高温になるぶん、消費電力が大きい」 significa que aumenta el gasto en electricidad, en la medida en que sube la temperatura. Esta estructura es fácil de entender, si pensamos en la misma como expresión de un motivo y la sustituimos por 「高温だから」. La estructura consiste en 「V (forma simple) ぶん」, 「adjetivo-いぶん」, 「adjetivo-NAなぶん」. También se puede utilizar con la forma negativa y con la forma de pasado.

- ・このメーカーのたこ焼き器のプレートは、着脱式で丸洗い出来るぶん、お手入れが簡単だ。 En la medida en que la plancha de takoyaki de esta marca es desmontable y se puede lavar entera, el mantenimiento es sencillo.
- ・この包丁は安くないぶん、とてもよく切れる。 En la medida en que este cuchillo no era barato, corta muy bien.
- ・日本から送ってもらったお屠蘇セットが壊れて届いた。楽しみにしていたぶん、がっかりした。 Recibí roto el juego de O-toso que me enviaron desde Japón. Como lo esperaba con ilusión, me sentí decepcionado.
- ・このスマホは機能がシンプルなぶん、年配の方でも気軽に使える。 En la medida en que las funciones de este teléfono inteligente son sencillas, puede ser utilizado fácilmente, también por personas mayores.

5. たこ焼きを焼いている間、ほかの電気製品が使えず…。 No se pueden usar otros aparatos eléctricos mientras se cocina takoyaki…

「Vている間」 expresa una situación en la que la acción es continua. En frase posterior a 「Vている間」 figura una acción o un acto que continúa durante un periodo determinado. Por otra parte, en el caso de añadir la partícula “ni” en 「Vている間に」, vendría una frase en la cual sucedería un hecho durante el período de tiempo en el cual dura la situación. Es decir, un suceso o acción breve que concluye durante la situación descrita en la frase previa. Aparte, 「Vている間に」, al igual que 「～うちに」 posee también el significado de hacer algo o terminar algo mientras dura una situación. (Ver B1-2 T4)

- ・停電している間、パソコンが使えなくて不便だった。 Fue un inconveniente no poder usar el PC durante el apagón.
- ・大阪に出張で行ってる間に、お好み焼きを食べに行った。 Mientras estuve de viaje de negocios en Osaka fui a comer Okonomiyaki.
- ・観光をしている間に、たくさん写真を撮った。 Saqué muchas fotos mientras hacía turismo.
- ・夫がホテルで寝ている間、私は浅草にお土産を買いに行った。 Mientras mi marido dormía en el hotel fui a Asakusa a comprar souvenirs.

6. 調理中にプレートが傾いて、やけどしそうになりました。 Mientras estaba cocinando la plancha se inclinó y casi me quemó.

「Vそうになる」 se utiliza cuando parecía que estaba a punto de suceder algo, pero en realidad no fue así. Es una expresión que posee el significado de “por los pelos” y se usa con frecuencia cuando está a punto de ocurrir un percance, pero no ocurre, como por ejemplo en 「転びそうになる」 (estar a punto de resbalar) o 「車にひかれそうになる」 (estar a punto de ser atropellado). También se puede usar de manera metafórica para exagerar algo, como en 「泣きそうになる」 (casi se me saltan las lágrimas) o 「死にそうになる」 (casi me muero).

- ・バーベキューをしている時、肉を焦がしそうになった。 Mientras hacíamos la barbacoa, estuvo a punto de quemarse la carne.
- ・フリーマーケットで、お金を盗まれそうになった。 Estuve a punto de que me robaran en un mercadillo.
- ・東京の地下鉄で、迷子になりそうになった。 Estuve a punto de perderme en el metro de Tokio.
- ・混んでいる電車の中で、ハイヒールの女性に足を踏まれて、泣きそうになった。 Me pisó el pie una chica con tacones altos dentro de un tren abarrotado y casi se me saltan las lágrimas.

7. ラッピングもしてくれるとのことでしたが、…… Lo he encargado porque me han dicho que también lo envuelven para regalo, pero…

「～とのことだ」 tiene un significado parecido a 「～そうだ」 o 「～ということだ」 y se utiliza cuando transmitimos una información que hemos escuchado o leído de otra fuente. Por lo general se trata de una expresión rígida de lenguaje escrito, pero cuando se usa en el lenguaje oral se hace dentro de un contexto formal. Es un caso habitual usar 「～のことです」 cuando se toman recados telefónicos para transmitir un mensaje a los jefes o compañeros o al escribir notas en el trabajo.

- ・日本のラップは、切りやすいとのこと。 Se dice que el film transparente de Japón es fácil de cortar.

- ・リンゴカッターは、手も汚れないし、安全とのこと。 Dicen que el corta-manzanas no ensucia las manos y es seguro.
- ・ネットで買い物をしたら、代金が二重に引き落とされていたので、クレームメールしたら、すぐに返金してくれるとのことだった。 Cuando compré por internet me cobraron dos veces, así que reclamé y me dijeron que enseguida me devolverían el dinero.
- ・八つ橋は、お土産に喜ばれるとのことなので、私も買おうと思います。 Dicen que el Yatsushashi es un regalo que gusta mucho, así que yo también pienso comprar.

Rincón lingüístico-cultural para hispanohablantes

1. Kappabashi (calle de tiendas de utensilios de Kappabashi)

Kappabashi es la calle de tiendas de utensilios número uno en Japón, situada en Nishi-Asakusa y llamada también Kappabashi *dôgu-gai* (calle de tiendas de utensilios de Kappabashi). Ubicada a casi un kilómetro de Sensoji, se puede llegar en unos diez minutos andando desde allí. En sus aceras hay una hilera de más de 170 tiendas especializadas, donde se puede encontrar cualquier cosa relacionada con utensilios de cocina, vajilla, equipamiento para cocinas profesionales y artículos para la elaboración de dulces.

Al principio prosperó como un barrio visitado por personas relacionadas con el mundo de la hostelería para comprar utensilios profesionales. Sin embargo, actualmente se ha convertido en un lugar en el cual disfrutan de las compras de artículos de cocina y vajilla, tanto turistas como cualquier otra persona. Después de que los *shokuhin sampuru* (réplicas de comida) típicos de Japón fueran mencionados en guías turísticas, ganó popularidad también entre los visitantes extranjeros, de manera que hay tiendas que se dedican exclusivamente a la venta de *souvenirs* enfocada en los mismos.

Igualmente, se pueden adquirir fácilmente en estas tiendas utensilios de cocina especiales (por ejemplo, moldes ovalados para cortar o cuchillos de usos específicos) fabricados por artesanos japoneses y que gozan de gran reputación entre los cocineros extranjeros. Por esta razón, comenzaron a verse por esta calle extranjeros que visitaban Japón, incluidos cocineros profesionales. Se trata de un lugar donde se pueden adquirir utensilios de cocina o vajilla para uso, tanto profesional como amateur, o simplemente disfrutar paseando por el mismo entre una abundante cantidad de artículos raros.

2. Souvenirs de Japón.

Se podría elaborar una larga lista de recuerdos representativos de Japón, como por ejemplo, artículos inspirados en el monte Fuji, palillos, abanicos y pañuelos con estampados de flor de cerezo, *ukiyoe* o sushi, accesorios confeccionados con papel japonés, envoltura *furoshiki* de tela *chirimen* o artesanía lacada. Sin embargo, a pesar de haber escogido algo pensando que era muy "japonés", hay algunas cosas a las que no se les puede dar uso en el extranjero, por lo que cuando se eligen *souvenirs* de Japón, quizás sea mejor elegir algo de buen gusto y que se pueda usar en la vida cotidiana. A continuación se proponen algunos artículos de recuerdo que no abultan y que son prácticos.

1) Pañuelo *tenugui*.

El pañuelo *tenugui* es lo más apropiado como regalo tradicional japonés. Adornado con motivos japoneses (estampado de las cuatro estaciones o signos del zodiaco chino, paisajes de lugares famosos de diferentes sitios, ilustraciones de *ukiyoe* y de actores de kabuki, dibujos que atraen la buena suerte, como de *daruma* y el gato de la fortuna) se puede usar como pañuelo de bolsillo, para envolver cosas o ponérselo en la cabeza como un bandana, etc. El precio es asequible y hay muchos tipos y diseños, por lo que es ideal comprar muchos diferentes y repartirlos, cuando hay que obsequiar a mucha gente.

2) Camisetas con kanji.

Quizá sea un poco difícil de entender para los japoneses, pero para los extranjeros los kanji son muy chulos. Entre los artículos relacionados con kanji, son especialmente populares las camisetas. Mirando las principales páginas de Internet de camisetas de kanji, se venden por varias categorías, como por ejemplo: época de Sengoku, graciosas o de frases famosas. Hay veces sucede que, al encontrarse con un extranjero que viste una camiseta de kanji, los japoneses no están muy seguros de cuál es la lectura correcta de ese kanji.

3) Bolígrafos de tinta borrable.

Los artículos de papelería de fabricación japonesa son poco comunes y fáciles de usar, por lo que son de gran aceptación, incluso en el extranjero. Sobre todo, los bolígrafos de tinta borrable son muy apreciados entre los visitantes. En realidad, se venden también en 40 países, siendo un producto de los más comercializados, debido a que se puede usar en cualquier situación de la vida cotidiana. Aparte de bolígrafos de tinta borrable, también hay otros tipos, como rotuladores de colores para subrayar.

4) Kit-kat de venta exclusiva en Japón.

Hay mucha gente que prefiere como *souvenirs* chocolate o dulces normales y corrientes. El Kit-kat es un clásico que tiene su origen en el extranjero, aunque son muy famosos a nivel mundial los kit-kat elaborados en Japón, con productos exclusivos como los kit-kat de colores y con sabores como té verde, *wasabi*, arándanos, miso, aroma de sakura o sake.

3. Cosas que traen de Japón los japoneses que viven en el extranjero.

En el T6 (p.132) de este libro, se ponen algunos ejemplos de cosas que los japoneses que residen en el extranjero suelen traer de Japón. Consisten sobre todo en artículos que sólo se venden en aquel país o que resultan más baratos en Japón o que son de mayor calidad. Veamos una lista dividida en cuatro grandes categorías.

1) Artículos de cocina.

Tal y como vimos al principio de esta sección al hablar sobre la calle de Kappabashi, los artículos de cocina son muy abundantes en Japón. También hay productos originales que solamente se venden allí (esponjas para fregar, film transparente de alta calidad, redes para fregar los platos, melamina para limpieza, cuchillos, ralladoras, cubiteras, cajas para *obento*, etc)

2) Productos de uso cotidiano.

Los mejores productos de uso cotidiano son aquellos que estamos acostumbrados a usar. Hay cosas que se pueden comprar en Japón en una tienda de todo a 100 yenes, pero que si las adquirimos en el extranjero son caras por falta de demanda (medicamentos de uso frecuente, cosméticos básicos, calentamanos adhesivos de usar y tirar, redes para la colada, cepillos de dientes, ropa interior, spray desodorante, spray para el pelo, repelente de insectos o incienso para ahuyentar mosquitos).

3) Artículos de papelería, libros y prensa.

Los productos de papelería japoneses están elaborados son muy variados, por lo que resultan imprescindibles para los japoneses que viven en el extranjero. Por otro lado, al comprender mejor los textos escritos en japonés, traer diferentes tipos de lecturas es también una de las cosas más frecuentes (bolígrafos, cuadernos tamaño B5, juego para escribir cartas con ilustraciones japonesas, set de caligrafía, guías de viajes, últimos números de las revistas favoritas, etc).

4) Productos de alimentación.

Cuando se vive en el extranjero, lo que más se echa de menos son los ingredientes de Japón. Aunque es posible adquirirlos casi todos en supermercados japoneses, coreanos o chinos, la verdad es que hay poca variedad y suelen ser caros, por lo que es habitual traer muchos cuando se va a Japón (el miso preferido, arroz japonés, ciruelas encurtidas a mano, condimento picante de yuzu, *furikake*, bolsas de té, galletas de arroz, caramelos de azúcar moreno, ramen instantáneo, pasta de curry, etc).

お気に入りの映画 Mis películas favoritas



Entablar una conversación

Can-do Ser capaz de intercambiar comentarios, con amigos por ejemplo, desde diversos puntos de vista sobre una película que hayamos visto.

FORMA	USO
1.ストーリーがほとんど なかったって感じ じゃない？ 見てて すごくリラックスできた気がする 。 2.まるで 絵を見てみたい で。 3.時間が短く 感じるくらい 、映画の世界に入り込んでたの かなって 思った。	<ul style="list-style-type: none"> • Expresar nuestro criterio con moderación. • Usar un ejemplo. • Expresar un grado.

Comprender leyendo

Can-do Leer y comparar varias reseñas sobre una película y ser capaz de comprender las diferencias de opinión.

FORMA	USO
4. 期待したとおり 、いい映画でした！ 評判どおり すばしかったです。 5.もう石炭の時代ではないと わかっていながらも 、炭坑を守ろうと、…… 6.新しいものを 受け入れようとする 人々と、…… 7.新しいものを 受け入れようとする 人々と、新しいものを認められない人々との対立は、いつの時代にも あるものだ 。	<ul style="list-style-type: none"> • Expresar que algo es igual a lo que habíamos escuchado o previsto. • Expresar lo contrario. • Expresar un conducta de esfuerzo. • Expresar una tendencia o una forma de ser que se consideraría normal.

Entablando una conversación

1. ストーリーがほとんど**なかったって感じ**じゃない？ ¿No te ha parecido que casi no había historia?

見ててすごくリラックスできた気がする。 Siento que he podido relajarme muchísimo viéndola.

「～(って)感じ」「～(って)気がする」 tiene el mismo significado que 「～と感じる」, 「～という気がする」, pero es una manera de hablar más informal. Resulta útil cuando manifestamos una opinión o criterio de forma moderada, siendo una expresión que suena más suave que cuando afirmamos algo con claridad. 「感じ」 y 「気がする」 tienen ambas prácticamente el mismo significado, así que se pueden sustituir la una por la otra. Las estructuras se forman con 「V (forma simple) って+感じ」, 「adjetivos-I/NAって+感じ」 y 「Nって+感じ」. En general podemos omitir 「って」.

- あっという間に**終わったって感じ**だね。 Me da la sensación de que ha terminado enseguida.
- 思ったより**短かったって気がしない**？ ¿No te parece que ha sido más corta de lo que pensábamos?
- あんまり**好きじゃない感じ**。 Me parece que no me gusta mucho.
- 今まで見た中で**最高だった気がします**。 Tengo la impresión de que ha sido la mejor de las que he visto hasta ahora.

Sin embargo, en la forma afirmativa del presente de los adjetivos-NA y de los sustantivos no se puede omitir 「って」.

- ・この俳優、歌よりダンスの方が上手って感じがする。Da la impresión de que este actor es mejor bailando que cantando.
- ・ホラー映画っていうより、ラブストーリーって気がする。Da la sensación de ser más una historia de amor que una película de terror.

2. まるで絵を見てみたいで。Es totalmente como si estuviera mirando un cuadro.

A pesar de no ser así en realidad, cuando se pone un ejemplo para expresar algo se usa 「まるで～みたいだ」「まるで～ようだ」。Al utilizar 「まるで」 se refuerza aún más el sentido metafórico. 「～みたいだ」 es una expresión más informal y coloquial que 「～ようだ」。La estructura consiste en 「まるで+V (forma simple)+みたいだ／ようだ」「まるで+N+みたいだ」, 「まるで+Nの+ようだ」.

- ・最後のダンスシーンはすごかったね。まるでブロードウェイに来たみたいだったよ。La última escena de baile fue formidable. Era totalmente como si hubiera ido a Broadway.
- ・幻想的な物語で、まるで夢を見ているようでした。Era una historia de fantasía que parecía totalmente como si estuviera soñando.
- ・ドキュメンタリー風で、まるで映画じゃないみたい。Tiene un estilo de documental, completamente como si no fuera una película.
- ・絵が繊細で、まるで実写みたいだね。Los dibujos son muy detallados, completamente como si fuera una película de personas reales.
- ・あの俳優は日本語が上手で、まるで日本人のようです。Aquel actor habla muy bien japonés, parece totalmente como un nativo.

3. 時間が短く感じるぐらい、映画の世界に入り込んでたのかなって思った。Sentí que me metía tan de lleno en el mundo de la película, que era como si el tiempo se acortase.

Esta expresión se utiliza para explicar algo de manera sencilla al interlocutor. Cuando explicamos cómo es una situación o unas circunstancias, utilizamos 「～ぐらい」 junto con ejemplos concretos o metáforas. Se puede sustituir por 「ほど」, pero 「ぐらい」 es más informal y coloquial. La estructura consiste en 「V (forma diccionario／ない)+ぐらい」.

- ・映画館のエアコンが効き過ぎて、震えるぐらい寒かった。El aire acondicionado del cine estaba tan fuerte que casi temblaba por el frío.
- ・主人公の女優さんは美人で、思わず見とれてしまうぐらいだ。La actriz protagonista era tan guapa que casi me quedo embobado.
- ・お腹が一杯で晩ご飯を食べられないぐらい、映画館でポップコーンを食べてしまった。He comido tantas palomitas en el cine que me he llenado y casi no puedo cenar.
- ・すごく感動的な話だよ。何度も見に行ったぐらい！ Es una historia conmovedora. Tanto, que he ido a verla muchas veces.

Comprender leyendo

4. 期待したとおり、いい映画でした！ Tal y como esperaba fue una buena película.

評判どおりすばらしかったです。Conforme a su reputación fue magnífica.

「～たとおり」「～どおり」 expresa que algo es igual a lo que pensábamos o habíamos escuchado. La estructura es 「Vたとおり」「Nどおり」.

- ・作品の出来は思ったとおりイマイチだった。Tal y como pensaba, la calidad de la obra dejaba mucho que desear.
- ・友達が言ったとおり、感動的な結末でした。Como me dijo mi amigo, el desenlace fue emocionante.
- ・予想どおり映画館の入口は人の列でいっぱいだった。Como me imaginaba, la puerta del cine estaba llena de personas en cola.
- ・ロコミどおり、1作目より2作目のほうが面白いと思った。Conforme a lo que dice la gente, creo que la segunda parte fue más interesante que la primera.

5. もう石炭の時代ではないとわかっていながらも、炭坑を守ろうと、…… A pesar de saber que ya no es la era del carbón, se proponen proteger la mina, ...

「～ながらも」 es una frase adversativa que tiene el mismo significado que 「～にもかかわらず」。En la frase posterior se

manifiesta algo contradictorio con el contenido de la frase precedente, que va con 「～ながらも」. La estructura consiste en 「Vながらも」, 「adjetivos-Iながらも」, 「adjetivo-NAながらも」 y 「Nながらも」. Ya que 「～ながらも」 es una expresión escrita, en el caso de lenguaje oral utilizaremos, por ejemplo, 「～(な)のに」 o 「～けど」.

- ・泣いてはいけな**い**と思**い**ながらも、つい泣いてしまいました。A pesar de sentir que no debía llorar, acabé haciéndolo sin darme cuenta.
- ・若**い**ながらも堂々とした演技が光っていた。Pese a su juventud, su majestuosa interpretación resplandecía.
- ・有名**な**ながらも、いつまでも謙虚さを忘れない立派な人物である。A pesar de ser famoso, es una persona excelente que nunca olvida la humildad.
- ・新人監督**な**ながらも素晴らしい出来映えだ。Pese a tratarse de un director novel, es una producción de una calidad excelente.

6. 新しいものを受け入れようとする人々と、…… Las personas que están dispuestas a aceptar las cosas nuevas, ...

Cuando se expresa que se produce un esfuerzo para hacer algo realidad, intentar hacer algo o que se tiene esa intención, se utiliza 「V(よ)うとする」. La estructura consiste en 「V (forma volitiva)+とする」. Para conjugar la forma volitiva, ver A2/B1 T5.

- ・言葉で説明**し**よう**と**しても、感動を伝える事はなかなか難しい。Las emociones son bastante difíciles de transmitir, por mucho que te empeñes en expresarlas con palabras.
- ・母親が家族を励**ま**そう**と**する姿が印象的だった。La imagen de la madre intentando animar a la familia era impresionante.
- ・子供たちが大人を助**け**よう**と**する様子が可愛かった。La imagen de los niños intentando ayudar a los adultos era adorable.

La forma negativa 「V(よ)うとしない」 expresa que no se produce un esfuerzo, que no se intenta o que no se tiene esa intención, y se utiliza cuando nos referimos a alguien que no sea uno mismo.

- ・父はSF映画に全く興味がないので、見**よ**う**と**しない。Mi padre no tiene ningún interés por las películas de ciencia ficción, así que no tiene intención de verlas.
- ・子供は映画に夢中で私の言うことを聞**こ**う**と**しない。El niño está tan absorto en la película que ni quiere escuchar lo que le digo.

7. 新しいものを受け入れようとする人々と、新しいものを認められない人々との対立は、いつの時代にもあるものだ。El enfrentamiento entre aquellos que intentan aceptar lo nuevo y los que no son capaces de admitirlo, es algo que tiene lugar en todas las épocas.

Cuando expresamos algo que es lógico conforme a la esencia o naturaleza de las cosas o las personas, según la tendencia general, se usa 「～ものだ」. Colocado al final de la oración, refleja los pensamientos del hablante. Consiste en una forma de hablar con un matiz que permite vislumbrar la esencia del asunto. La estructura se construye con 「V (forma diccionario)+ものだ」, 「V ない+ものだ」, 「adjetivo-Iい+ものだ」, 「adjetivo-NAな+ものだ」.

- ・若者というのは、古い考え方に反**発**する**も**のだ。La juventud se suele rebelar contra las antiguas formas de pensar.
- ・2作目は1作目の評判を**超**えられ**な**い**も**のである。La segunda obra no suele superar la fama de la primera.
- ・小さい頃に見て感動した作品は、いつまでも**忘**れられ**な**い**も**のです。Una película que has visto de pequeño y te ha emocionado, es algo que no se puede olvidar nunca.
- ・映画やテレビの世界と言うのは**華**やか**な****も**のです。El mundo del cine y la televisión es vistoso.

1. Fukushima Hula Girls (2011) (Ganbappe Hula Girls)

La película que se presenta en el texto (Hula Girls) se basa en la historia real del nacimiento y camino hacia el éxito del Spa Resort Hawaiians, levantado en la ciudad minera de Iwaki, en la prefectura de Fukushima. Se trata de una magnífica obra que ilustra con dinamismo la figura de unas jóvenes de pueblo que, a pesar de tener una imagen muy alejada del esplendor de un espectáculo de danza Hula, persiguen tenazmente su sueño. El Spa Resort Hawaiians, construido en 1966, había crecido en el año 2006, fecha de estreno nacional de Hula Girls hasta superar con orgullo el millón seiscientos mil visitantes al año.

Sin embargo, 5 años después, debido al gran terremoto del Este de Japón de 11 de marzo de 2011, se produjeron graves daños en las instalaciones, siendo inevitable su cierre durante un largo período de tiempo. Para superar esta difícil situación se organizó una campaña de reconstrucción denominada Hula Girls – Caravana solidaria nacional, que realizó una gira por todo Japón, emulando el espíritu que superó las adversidades en los años 60, con el sucesivo cierre de las minas de Joban. Esta caravana nacional tuvo lugar 46 años después de la construcción del Resort Hawaiians.

Fukushima Hula Girls (Ganbappe Fura Gâru! Fukushima ni ikiru. Kanojo-tachi no ima) es un película de tipo documental que muestra la gira nacional de la Hula Girls, así como el proceso de restauración. Un año después del desastre, las instalaciones consiguieron volver a abrir sus puertas por completo y recuperaron su número de usuarios, con una ocupación de hasta un millón cuatrocientas mil personas al año. *Ganbappe* es dialecto de la zona de Tohoku y en japonés standard se diría *Ganbaro*. ¿Verdad que nos gustaría dar un gran aplauso de corazón, no solo a las Hula Girls, sino a todas las personas que se esfuerzan en zonas de catástrofe? Ojalá que muchos espectadores puedan ver tanto *Hula Girls* como *Fukushima Hula Girls*, películas en las que se puede encontrar momentos de tristeza y de gran alegría.

2. Jidai-geki

El cine japonés que actualmente se exporta al extranjero consiste fundamentalmente en anime y cine moderno, pero hay también un género muy diferente de los anteriores, denominado *jidai-geki*. Se trata de películas que tienen como escenario el Japón anterior a la Restauración Meiji, que tuvo lugar a finales del S. XIX y que en el extranjero han venido a llamarse “películas de samuráis”. De gran calado entre la crítica, con obras consideradas piezas maestras de la historia del cine, con títulos como *Yojimbo* (1961) o *Los siete samuráis* (1954) del director de mediados del S. XX, Akira Kurosawa, este género ha influido enormemente en cineastas de todo el mundo. George Lucas es, por ejemplo, un gran fan de Kurosawa, siendo muy conocido que adoptó el nombre de Jedi de *La Guerra de las Galaxias* de “jidai”, vistió a Luke con un *karategi* o que se inspiró en el casco de un samurái para crear el que llevaría Darth Vader. Igualmente, la película del Oeste *Los Siete Magníficos* (1960), protagonizada por un elenco de lujo como Yul Brynner o Steve McQueen y dirigida por Sergio Leone, o *Por un puñado de dólares* (1964), con Clint Eastwood como actor principal, son todas remakes estilo wéstern de obras de *jidai-geki* producidas por Kurosawa. Es interesante cómo se sustituyen samuráis por cowboys o katanas por pistolas, consiguiendo excelentes adaptaciones. Parece que en los últimos años, el género de *jidai-geki*, con títulos como *Rurou ni Kenshin* en edición de manga, anime o personajes reales, se está haciendo popular en el extranjero, volviendo a resurgir un nuevo “ciclón” de los samurái entre los jóvenes.

3. Studio Ghibli

Aunque no seamos estudiantes de japonés, si hablamos de *Mi vecino Totoro*, *El viaje de Chihiro* o *La princesa Mononoke*, son películas tan ampliamente conocidas que nos vendrá a la mente Hayao Miyazaki y Studio Ghibli. Esta productora japonesa de películas de animación se fundó en 1985. Se puede decir que este estudio de animación, fiel a sus principios de elaborar únicamente largometrajes de anime propios, es algo sumamente peculiar en el mundo. Esto es debido a que la mayoría de estudios japoneses de animación se centran fundamentalmente en producir series de televisión de anime o ediciones de manga en versión cinematográfica. A pesar de que los directores Hayao Miyazaki e Isao Takahata son el corazón de Ghibli, lo cierto es que ambos producían obras de anime conjuntamente mucho antes de la fundación de esta compañía. En la serie de animación emitida en 1974, *Heidi (Arupusu no Shojo Haiji)*, Isao Takahata realizó las labores de dirección, mientras que Hayao Miyazaki se encargó de los dibujos, siendo una serie muy querida por un gran número de generaciones a lo largo del mundo. El encanto de las películas de Ghibli consiste en su realismo y en la alta calidad de sus imágenes, a lo que hay que añadir la riqueza descriptiva del espíritu de sus personajes, conformando una cosmovisión única de Ghibli. En el año 2001 abrió sus puertas el Museo Ghibli de Mitaka no Mori. A diferencia de un museo convencional, no sólo se pueden admirar las obras expuestas, sino que también es posible experimentar y recrearse en el propio espacio, pudiendo sumergirse tanto niños como adultos en el mundo onírico de Ghibli. Igualmente, debido a que se proyectan obras de animación que sólo se pueden ver allí, es un lugar que los fans no pueden perderse. Es recomendable hacer la reserva por internet lo antes posible, ya que el sistema de acceso es únicamente mediante reserva previa.

身近な交通機関 Los medios de transporte de mi ciudad



Entablar una conversación

Can-do Poder describir en detalle la situación y ofrecer recomendaciones concretas a alguien que tiene problemas con el transporte.

FORMA	USO
1.何か お困り ですか？ 2.乗るときに、ちゃんと行き先を確かめて 乗ったつもり なんですけどね。 3.日本の電車 ほど正確 じゃないんですよ。 4.この週末、ピカデリー線は工事してるので、 動いてなかった と思いますよ。	<ul style="list-style-type: none"> • Preguntarle educadamente a alguien acerca de su situación actual • Expresar que el resultado de una acción fue distinto a la intención inicial • Hacer una comparación • Hablar del presente tratando de recordar alguna información conocida en el pasado

Comprender leyendo

Can-do Poder leer en Internet, por ejemplo, varios comentarios sobre el transporte y comprender diversas opiniones.

FORMA	USO
5.……。一方で、正確すぎて違和感があるという人も。 6.反応は国によっていろいろでした。 7.安心して寝られるなんて、 とても信じられない ！ 8.隣の人に いびきをかかれて イライラ	<ul style="list-style-type: none"> • Expresar contraste • Expresar que algo depende de algún factor • Expresar una negación rotunda • Expresar molestia por una acción

Entablando una conversación

1. 何か**お困り**ですか。 ¿Tienen algún problema?

Usábamos el sonkeigo o lenguaje de respeto (ver B1-1 T1) cuando queríamos hablar de las acciones del oyente mostrando cortesía. Para preguntar educadamente por la situación actual del interlocutor se emplea 「おVです」, que es una fórmula de lenguaje de respeto. Esta fórmula no puede usarse con los verbos que tienen formas especiales en el lenguaje de respeto, como 行く→いらっしゃる, する→なさる, etc.

- 地図は**お持ち**ですか。 ¿Tiene un mapa?
- 何か**お探し**ですか。 ¿Busca algo?
- 駅までの道は**おわかり**ですか。 ¿Sabe cómo llegar hasta la estación?
- ホテルまで歩いて**お帰り**ですか。 タクシーのほうが安全だと思いますよ。 ¿Va a regresar al hotel a pie? Creo que el taxi es más seguro.

2. 乗るときに、ちゃんと行き先を確かめて**乗ったつもり**なんですけどね。 Cuando nos montamos, creímos haber comprobado bien el destino.

Como ya sabemos, para expresar un plan futuro se usan las fórmulas 「Vつもりだ」 o también 「Vないつもりだ」 (ver B1-1 T6). En este topic empleamos la estructura 「Vたつもりだ」 para indicar que creíamos haber hecho algo pero que finalmente no lo

habíamos hecho, o para indicar que el resultado de nuestra acción ha sido distinto al previsto.

- ・デパートの前で待ち合わせと**言ったつもり**なんですけど、みんなに伝わってなかったみたいです。 *Dije que nos reuniéramos frente a los grandes almacenes, pero al parecer el mensaje no llegó a todos.*
- ・降りるバス停の名前、漢字もちゃんと**覚えたつもり**なんですけど、覚えていません。忘れてしまいました。 *Pensaba que había memorizado el nombre y los caracteres chinos de la parada de destino del autobús, pero no los recuerdo. Se me han olvidado.*
- ・ここに**入れたつもり**なんですけど、ありませんね。 *Se supone que lo había metido aquí, pero no lo encuentro.*
- ・おかしなあ。チケットをちゃんと**予約したつもり**なんですけど…。 *Qué raro. Pensé que había reservado correctamente las entradas...*

3. 日本の電車ほど正確じゃないんですよ。 No es tan puntual como los trenes de Japón.

Para comparar dos elementos podemos emplear la estructura 「(N1は)N2ほど～ない」。Significa que el N1 no llega a satisfacer el asunto en cuestión en la misma medida que el N2. Otra manera de expresar este significado es la fórmula 「N1よりN2のほうが～だ」。Por ejemplo, la frase 「ロシアの電車は日本の電車ほど正確じゃない」 compara la puntualidad de los trenes de Rusia y Japón diciendo que “los trenes rusos no son tan puntuales como los japoneses”, pero puede reformularse como 「ロシアの電車より日本の電車のほうが正確だ」, es decir, “los trenes japoneses son más puntuales que los rusos”.

- ・マドリードの駅は、東京**ほど混んでいない**。 *Las estaciones de Madrid no están abarrotadas de gente como las de Tokio.*
- ・東京のタクシーは、マドリード**ほど安くない**。 *Los taxis de Tokio no son tan baratos como los de Madrid.*
- ・東京の地下鉄は、マドリード**ほど古くない**。 *El metro de Tokio no es tan viejo como el de Madrid.*
- ・スペインの治安は、日本**ほどよくない**から、かばんはしっかり持った方がいいですよ。 *En España la seguridad pública no es tan alta como en Japón, así que conviene llevar el bolso bien sujeto.*

4. この週末、ピカデリー線は工事をしているので、動いてなかったと思いますよ。 Si no recuerdo mal, este fin de semana la línea Piccadilly no está en servicio porque está en obras.

Usamos la expresión 「～たと思う」 para informar al oyente de algún dato que recordamos, en especial, cuando no estamos seguros de esa información. Adopta alguna de las siguientes fórmulas: 「Vた＋と思う」, 「adjetivo-Iかった＋と思う」, 「adjetivo-NAだった＋と思う」 y 「N+だった＋と思う」.

- ・地下鉄の自動券売機は、大きな紙幣が**使えなかった**と思いますよ。 *Creo recordar que las máquinas expendedoras del metro no aceptan billetes grandes.*
- ・そこへ行く電車は、乗り継ぎが**悪かった**と思います。 *Si no recuerdo mal, el transbordo de los trenes para llegar allí es incómodo.*
- ・市内観光は、マルチカードがあると**便利だった**と思います。 *Para hacer turismo en la ciudad creo recordar que venía muy bien la Tarjeta Multi.*
- ・ここからソル広場に行くのは、地下鉄の**1番線だった**と思います。 *Si no me equivoco, la línea de metro que te lleva desde aquí hasta la Puerta del Sol era la 1.*

Comprender leyendo

5. ……。一方で、正確すぎて違和感があるという人も。 En cambio, otros creen que los trenes son demasiado puntuales y lo encuentran extraño.

日本人の健康を心配する意見もある一方、……という人も…… Hay personas preocupadas por la salud de los japoneses, pero por otro lado también [hay] personas que...

Usamos la estructura 「一方(で)」 o bien la fórmula 「F en forma simple＋一方(で)、～」 cuando, tratando un tema, queremos hacer una comparación. Esta fórmula nos permite abordar dos aspectos distintos de un mismo asunto.

- ・特急電車AVEは、「速くて便利だ」という声がある一方、「料金が高い」という声もあります。Con respecto al AVE, hay quien opina que es muy rápido y cómodo, pero por otro lado también hay quien dice que es caro.
- ・レンタル自転車の便利さを喜ぶ声がある一方、道路で自転車に乗る人が増えるのは危険だという声も出ている。Muchos aplauden lo útiles que son las bicicletas de alquiler y, en cambio, otros opinan que el aumento de ciclistas en las calles es peligroso.
- ・電車の中で小さい子どもが泣いているのを見て、仕方がないと思う人がいる一方で、うるさいと不快に感じる人もいる。Algunas personas opinan que no queda más remedio que resignarse cuando ven a un niño pequeño llorando en el tren. Por el contrario, otras lo consideran ruidoso y molesto.
- ・スペインでは、電車の遅れを気にしない人がいます。一方で、時間のルーズさに怒る人もいます。En España hay personas a las que les trae sin cuidado que el tren llegue con retraso. Pero, al mismo tiempo, hay quienes se indignan ante la impuntualidad.

6. 反応は国によっていろいろでした。Las reacciones variaron según el país.

La fórmula 「～によって」 se utiliza para indicar que algo varía o produce distintos resultados en función de una condición o situación. La causa de esta variación se expresa mediante el patrón 「NIによって」。Es frecuente utilizar esta fórmula en construcciones como 「NIによって…違う／変わる／異なる／さまざまだ」.

- ・文化や習慣によって考え方が異なるので、いろいろな意見があってもおもしろいです。La manera de pensar varía según la cultura o las costumbres y, por eso, es muy interesante que haya diversas opiniones.
- ・行き先によって料金が違うんですよ。La tarifa depende del destino.
- ・電車のホームは、路線によって色が決まっているので、色の表示を見て確認します。Cada andén tiene un color distinto en función de la línea, así que hay que fijarse en el color indicado.
- ・バスで旅行するのは便利ですが、バス会社によってターミナルが違うので迷ってしまって大変です。Viajar en autobús es muy cómodo pero es complicado y resulta fácil confundirse, porque la estación depende de cada compañía de autobús.

7. 安心して寝られるなんて、とても信じられない！ ¡No me puedo creer que puedan dormir tranquilos!

Esta fórmula se utiliza para negar algo rotundamente, por ejemplo, cuando algo nos resulta totalmente incomprensible o insoportable. Para ello, se utiliza la forma negativa de un verbo potencial según la estructura 「とても+V(られ)ない」.

- ・マドリードの地下鉄のホームでスーツケースを横においたまま寝るなんて、とても理解できない！ ¡Me parece inconcebible que en los andenes del metro de Madrid haya gente que se quede dormida con la maleta al lado!
- ・車内にたばこのにおいがして、とても耐えられない。Soy incapaz de soportar que huelga a tabaco dentro del tren.
- ・私なら、割り込みをする人を見たら、とてもだまっていられない。En mi caso, me resulta imposible quedarme callado cuando alguien se salta la cola.
- ・京都は、バスの料金がバスをおりる場所によって違うなんてとても信じられない。タクシーみたい！ Es increíble que en Kioto la tarifa del autobús dependa del lugar en el que te apeas. ¡Ni que fuera un taxi!

8. 「隣の人にいびきをかかれてイライラ」 Me pone de los nervios que ronquen a mi lado.

Como ya sabemos, la forma pasiva (ver A-2 L13, L18) se usa para describir una acción desde el punto de vista de quien recibe su efecto. En este tópico empleamos la forma pasiva 「V(ら)れる」 para expresar nuestro malestar o desagrado por la acción que realiza otra persona. Esta fórmula nos sirve para indicar una molestia que alguien nos causa directamente, pero también se puede aplicar a los actos realizados por alguien de nuestro alrededor que nos afectan y, al mismo tiempo, nos resultan molestos o desagradables.

- ・そこに荷物を置かれると、みんなが座れなくて迷惑です。Es un fastidio que hayan puesto el equipaje ahí y que nadie se pueda sentar.

- ・地下鉄の中で、酔った学生たちに騒がれてイライラしました。 Me puso de los nervios un grupo de estudiantes borrachos que estaban montando un escándalo en el metro.
- ・隣の人に大きな声で電話をされて最悪でした。 La persona que estaba a mi lado estuvo hablando a gritos por el teléfono y fue horrible.
- ・電車の中で子どもにはしゃぎ回られて腹が立ちました。 En el tren había unos niños correteando y armando bulla, y me acabaron poniendo de mal humor.

Rincón lingüístico-cultural para hispanohablantes

1. Normas de conducta en los transportes públicos de Japón

En una encuesta realizada en 2016 entre la población japonesa, más del 70 % de los participantes consideró que el comportamiento en público de la gente había empeorado con respecto al pasado. Teniendo en cuenta que los medios de transporte públicos son indispensables para desplazarse mientras se hace turismo, conviene conocer algunas reglas y normas de conducta que debemos respetar, especialmente en los trenes:

1) Subir y bajar

La regla básica para entrar en un vehículo consiste en dejar primero que se apeen los pasajeros que están dentro. Para ello hay que esperar fuera, formando una fila a ambos lados de la puerta, de manera que se cree una especie de pasillo central. Por cierto, ¡tener prisa no es excusa para adelantarse en la cola! Además, una vez dentro, hay que facilitarles la salida a los pasajeros que quieran bajar y por lo tanto hay que apartarse de las puertas cuando estas se abren.

2) Asientos reservados

En los autobuses y los trenes hay que procurar dejar libres los asientos reservados para las personas mayores o con problemas de movilidad, así como para las embarazadas. Se reconocen porque están marcados con un color diferente o con una pegatina adherida a las ventanillas. Aparte, en sus inmediaciones no está permitido tener el teléfono móvil encendido.

3) Vagones exclusivos para mujeres

En algunos trenes existen vagones a los que solo pueden subirse las mujeres. Están señalados con una pegatina de color rosa y se crearon como medida contra los crímenes de índole sexual, como los tocamientos o la toma no autorizada de vídeos y fotografías. Algunos vagones convencionales también pueden estar reservados para las mujeres en función de un horario concreto. Por ejemplo, esto suele suceder en la hora punta de la mañana o en la franja nocturna. Los únicos varones que pueden acompañar a las mujeres en estos vagones son los niños menores de 12 años y los hombres que ejerzan la función de cuidadores.

4) Niños pequeños

Los carritos para bebés deben ser plegados o retirados hacia un costado para ocupar el menor espacio posible. Además, si un niño quiere ponerse de pie en un asiento para mirar por la ventana, hay que quitarle primero el calzado. En Japón, algunos pasajeros son críticos con las personas que van con niños en los medios de transporte públicos y critican asimismo a los padres que no consiguen silenciar el llanto de sus hijos. Por eso, en este contexto, hay quien se lo piensa dos veces antes de llevar niños en los trenes.

5) Comer y beber

La prohibición de comer o beber en los trenes y autobuses es una regla básica. Muchos pasajeros encuentran desagradable o incómodo el olor de algunos alimentos o el consumo de bebidas alcohólicas.

6) El silencio

Hablar a gritos, charlar por el móvil, emitir ruido con los auriculares... todas estas acciones molestan al resto de los pasajeros. Asimismo, la norma marca que en el interior de los vehículos es obligatorio silenciar los teléfonos.

7) Caminar mirando el teléfono

La costumbre de caminar mientras se mira el teléfono móvil se llama 「ながらスマホ」. Resulta muy peligrosa cuando se circula por los andenes de las estaciones, así como cuando se entra y se sale de los vehículos. Además, se considera una práctica molesta, ya que quienes caminan de esta forma chocan con los demás pasajeros y obstaculizan el paso a la hora de subir o bajar del tren o autobús.

2. Tarjetas inteligentes para el transporte

En Japón se puede montar en los trenes y autobuses de todo el país utilizando una única tarjeta inteligente (*IC card*, o “tarjeta de circuito integrado”) para el sistema de transportes. Sus nombres varían según la compañía de ferrocarril expedidora —las más famosas son Suica (de la empresa JR East) y Pasma (de Tokyo Metro)— y ofrecen diversas ventajas, como la acumulación de puntos o la recarga automática si se asocian a una tarjeta de crédito. Estas tarjetas de transporte permiten ahorrar algo de dinero gracias a que suelen ofrecer descuentos mayores que los billetes convencionales.

3. La compleja red de estaciones y líneas de Tokio

La complejidad del conjunto de líneas de metro y tren de Tokio es famosa en el mundo entero. La red de ferrocarril de la capital japonesa es un conveniente sistema de transporte que conecta todos los rincones de la ciudad. Sin embargo, dadas su amplitud y la alta concentración de líneas, es también una red tremendamente compleja, tanto que su entramado cuesta visualizar si antes no se filtran los servicios de distintas empresas, como Japan Railways, el metro o las compañías privadas de ferrocarril. Esta complejidad va más allá de la propia red de líneas. Por ejemplo, la gigantesca estación de Shinjuku batió en 2016 un récord Guinness de tráfico, con cerca de 3,47 millones de pasajeros en un único día. Se trata de una enrevesada infraestructura compuesta de 9 niveles distintos, 5 de los cuales son subterráneos. No resulta extraño que la gente se refiera a ella como un “gran laberinto”. En su interior confluyen las líneas de cinco empresas de transporte distintas y para efectuar los transbordos de unas a otras hace falta salirse y volver a través de los accesos de control de billetes de cada caso. Por si esto resultara poco confuso para los turistas, también hay que distinguir entre las puertas de acceso superiores o subterráneas, según el caso de cada línea.

No obstante, hay japoneses que incluso disfrutan de esta complejidad y han aparecido blogs en los que se explican estrategias para dominar la estación de Shinjuku. Tanto es así, que hay hasta juegos de rol para móviles que reproducen con exactitud la complejidad de la estación y su entorno: la aventura toma la estación como punto de partida y consiste en encontrar un tesoro oculto bajo el edificio del gobierno metropolitano de Tokio. Con motivo de los Juegos Olímpicos de Tokio de 2020, se ha iniciado una reorganización de las vías que comunican los lados este y oeste de la estación, con la esperanza de reducir la dificultad de este particular “laberinto”.

忍者、侍、その頃は… La era de los ninja y los samuráis

うーん、どうかな。でも、まったく存在しないとはかぎらないよ。



宇宙人って本当に存在すると思いますか？

Entablar una conversación

Can-do Ser capaz de formular preguntas sobre aspectos que se duden de la historia o cultura de otro país, y participar en la conversación comentando sobre aspectos que se conocen o se han escuchado.

Forma	Uso
1. 忍者が今の日本に本当にいるわけないでしょう。 2. 忍術道場なら、アメリカにだってたくさんあるじゃない。 3. 今でも忍者がいるって、本当ですか？ 4. まったく嘘だとはかぎらないよ。	・Negar rotundamente una posibilidad. ・Compartir un contexto. ・Citar una frase completamente. ・Expresar que no se puede asegurar algo al 100%.

Comprender leyendo

Can-do Ser capaz de comprender las características de un personaje histórico leyendo un artículo, y saber a qué episodio se refiere.

Forma	Uso
5. 勝負において、信玄は、……おごりが出てくるのでよくないと考えていたという。 6. 自分に厳しく強い向上心を持った人物だったのであろう。 7. 謙信は相手が弱ったからといって、そこを攻めることはしなかった。 8. 時代は違っても、人間にとって大切なものは変わらないのかもしれない。	・Expresar el lugar, tiempo y situación. ・Expresar una suposición. ・Expresar que no se llega al resultado previsto. ・Expresar un punto de vista.

Entablando una conversación

1. **忍者が今の日本に本当にいるわけないでしょう。** Es imposible que realmente existan ninjas en el Japón actual.

Quando queremos negar rotundamente lo que ha dicho alguien o su forma de pensar reflejada en su comportamiento, utilizamos la estructura: 「わけ(が)ない」. Contiene significados como: “Es absurdo que pienses eso” o bien “Es un disparate que digas eso”. La estructura sería 「V (forma simple)+わけがない」, 「adjetivo-い+わけがない」, 「adjetivo-NAな+わけがない」 y 「Nの／な+わけがない」. En el caso de la expresión oral, se utiliza generalmente 「わけない」.

- ・大事な書類がそんなところに入っているわけがない。 Es imposible que documentos tan importantes estén guardados en un lugar como ese.
- ・この汚い川に魚がいるわけがない。 Es imposible que en un río tan sucio como este haya peces.
- ・風邪で死ぬわけないでしょう。 Es un disparate que te vayas a morir de un resfriado.
- ・こんなに立派な本をただで配るわけないよ。 Es imposible que un libro tan majestuoso como este lo repartan gratis.

2. **忍術道場なら、アメリカにだってたくさんあるじゃない。** Si te refieres a escuelas de *ninjutsu*, las puedes encontrar perfectamente en América.

忍者が使った道具や武器は、実際に残っているじゃないですか。 Y todavía existen armas y objetos de ninjas actualmente, ¿no?

Utilizamos la expresión 「～じゃない(ですか)」 para expresar nuestra opinión sobre una información que se nos ha dado. Se suele utilizar cuando queremos continuar la conversación tras confirmar una información que ya es conocida por el oyente. La estructura sería 「V (forma simple)+じゃないですか」, 「adjetivo-いい／くない+じゃないですか」, 「adjetivo-NA+じゃないですか」 y 「N+じゃないですか」. En el contexto informal se utiliza 「～じゃない」 y en el contexto formal se utiliza 「～じゃないですか」.

・日本語って時々、同じ言葉をカタカナでもひらがなでも漢字でも書くじゃないですか。 De vez en cuando en japonés escribimos la misma palabra en katakana, hiragana o kanji, ¿no?

・おすしを自分で作るのは大変だし、時間もかかるじゃない。おすし屋さんに注文したほうがいいよ。 Preparar uno mismo sushi es trabajoso, y se tarda mucho tiempo, ¿no? Es mejor pedirlo a un restaurante.

・日本のアニメって、日本の外でもファンがすごく多いじゃないですか。 Es increíble que el anime japonés tenga tantos seguidores fuera de Japón, ¿no crees?

・最近、うちの大学の近くに新しい日本料理屋ができたじゃない。 Han abierto últimamente un nuevo restaurante de comida japonesa cerca de nuestra universidad, ¿no?

3. 今でも忍者がいるって、本当ですか？ ¿Es cierto que existen ninjas actualmente?

Ya hemos utilizado anteriormente la expresión 「～って」. En el caso del nivel intermedio 1 podíamos ver ejemplos como: 「アナさん、先月結婚したって。」, en los que expresábamos lo que habíamos oído anteriormente (ver uso en B1-1 T5). En el caso del nivel intermedio 2 utilizaremos esta expresión para indicar el tema principal, como en el ejemplo siguiente: 「奥村先生って、よく知っていますか？」 (ver uso de 「Nって」 en B1-2 T1).

En este tópico aprenderemos cómo convertir la información en el tema principal, pero no utilizando un sustantivo, sino una cláusula completa 「F en forma simple +って」. Lo empleamos cuando el hablante retoma un tema, y sobre ello añade sus comentarios, al igual que pregunta sobre dicha información. En el contexto formal utilizaríamos 「～というのは」.

・この割引券を使うと入場料が半額になるって、本当ですか。 ¿Es cierto que si se usa este cupón la entrada cuesta la mitad?

・この神社が有名なアニメの舞台になったって、知りませんでした。 No tenía ni idea de que este templo hubiera sido el escenario de un anime.

・85歳のおばあちゃんがバイクで買い物に行かって、ちょっと信じられないですね。 Parece un poco increíble que una anciana de ochenta y cinco años vaya a la compra en moto.

・田中先生が来年この学校をやめるって、そんなわけないですね？ Que el Profesor Tanaka vaya a dejar esta escuela el próximo año, no puede ser, ¿no?

4. まったく嘘だとはかぎらないよ。 No se podría asegurar que sea una mentira completamente.

La estructura 「～とはかぎらない」 expresa que no podemos asegurar al 100% algo. No se trata de negar todo el contenido de una frase totalmente, sino una parte. Se utiliza la forma 「F en forma simple +とはかぎらない」, y en contexto formal sería 「～とはかぎりません」. En el caso del primer ejemplo siguiente, el significado sería “De lo que está escrito en un diccionario, también hay partes incorrectas”.

・辞書に書いてあることがいつも正しいとはかぎらないよ。 No siempre todo lo que está escrito en un diccionario es correcto.

・スペイン人がみんなパエリアの作り方を知っているとはかぎらない。 No hay que suponer que todos los españoles conocen la forma de preparar una paella.

・安全運転をしていれば車の事故を防げるとはかぎらない。 El que conduzcas con prudencia no siempre significa que puedas evitar un accidente.

・エリート大学を卒業した人が、必ず社会で成功するとはかぎりません。 Porque se haya graduado en una universidad de renombre no significa que vaya a tener éxito en la sociedad con seguridad.

5. 勝負において、信玄は、…おごりが出てくるのでよくないと考えていたという。 Se dice que Shingen pensaba que los duelos no son buenos ya que hacen que salga el orgullo.

今の時代においても、ビジネスやスポーツなどに通じるものがあると思う。 Aún en la época moderna esta frase sigue utilizándose en el mundo de los negocios y los deportes.

En la estructura 「Nにおいて」 introducimos junto al sustantivo palabras que expresen lugar, tiempo, contexto o situación, y significa “en el caso de”, “en la época”, “en el contexto” o bien “en la situación”. En la frase siguiente añadimos la explicación del contenido. Con un significado parecido podemos encontrar estructuras como 「～に関して」「～について」. Se utiliza en el lenguaje escrito como expresión ceremoniosa. Se puede intercambiar por la expresión 「Nでは」.

- ・日本の小学校において、コンピュータを使った授業はあまり行われていない。 En el caso de los colegios japoneses no se suelen utilizar demasiado los ordenadores en las clases.
- ・古代日本において、女性の地位は高かった。 En el Japón de la época antigua la clase de la mujer era alta.
- ・武道において、相手への礼儀は勝ち負けよりも大切である。 En el caso del bushido era más importante el respeto hacia el otro que ganar o perder.
- ・現代社会において、まだすべての人の人権が尊重されているとは言えない。 No se podría decir que en el caso de la sociedad actual se respeten los derechos humanos de todas las personas.

6. 自分に厳しく強い向上心を持った人物だったのであろう。 Se podría decir que era un personaje estricto consigo mismo y con fuerte afán de superación.

Cuando queremos emitir un juicio basándonos en una suposición del hablante, utilizamos la estructura 「Nであろう」. Además de con sustantivos, podemos usarlo con una cláusula 「F en forma simpleの+であろう」. 「であろう」 tiene el mismo significado que 「だろう」, pero se utiliza como una expresión más formal en el contexto escrito.

- ・書道の本場は、やはり中国であらう。 Podríamos decir que la tierra de la caligrafía es China ciertamente.
- ・日本に住んでいる外国人にとって一番の心配は、いつ起こるか分からない大地震であらう。 Se podría decir que la primera preocupación de los extranjeros que viven en Japón son los impredecibles terremotos.
- ・海外旅行をする日本人が増えたのは、飛行機代が安くなったことが影響しているのであらう。 Podríamos decir que hay más turistas japoneses viajando al extranjero debido a los bajos precios de los billetes de avión.
- ・アニメやマンガなど、日本のポップカルチャー人気がきっかけとなって、日本語を勉強する人が増加したのであろう。 Se podría decir que el aumento del número de estudiantes de japonés se debe a la popularidad de la cultura pop japonesa (anime, manga, etc.)

7. 謙信は相手が弱ったからといって、そこを攻めることはしなかった。 Kenshin no atacaba por el hecho de que el adversario fuese débil.

La estructura 「～からといって、～ない」 expresa que la causa indicada con 「～から」 no concluye con el resultado esperado. En el caso de 「AからといってB」, significa que aunque llegásemos a la conclusión de que al ser “A” correcto “B” lo sería también, no se da ese resultado. En la parte “B” empleamos una estructura negativa con 「～ない」. Se suelen emplear en “B” estructuras negativas como 「～とはかぎらない」「～わけではない」.

- ・大学を卒業したからといって、すぐに就職できるわけではない。 Por el hecho de ser graduado universitario no significa que enseguida consiga trabajo.
- ・父親が医者だからといって、息子も医者になるとはかぎらない。 Por el hecho de que el padre sea médico, no significa que el hijo también se convierta en uno también.
- ・大統領が変わったからといって、アメリカの政治が変わったわけではない。 No significa que haya cambiado la política en E.E.U.U. por el hecho de haber cambiado de Presidente.
- ・一生懸命やったからといって、仕事が完成するとはかぎらない。 Por mucho que te hayas esforzado, no siempre significa que

hayas completado tu trabajo.

8. 時代は違っても、人間にとって大切なものは変わらないのかもしれない。 Aunque la época sea distinta, es posible que no cambie lo más importante para el ser humano.

La estructura 「NIにとって」 expresa el valor o juicio de la posición o punto de vista de alguien. Se puede intercambiar con 「～の立場では」 o 「～から見ると」. En el sustantivo suelen aparecer palabras relacionadas con personas, pero también pueden aparecer expresiones abstractas.

- ・小学生にとって、千円は大金だ。 Para un niño de primaria, mil yenes es una gran cantidad de dinero.
- ・若い人たちにとって、老後は遠い未来の問題である。 Para la juventud, la tercera edad es un problema lejano en el futuro.
- ・1日2回歯をみがくことは、歯の健康にとって大事なことです。 El lavarse los dientes dos veces al día es muy importante para la salud dental.
- ・イチローのような大選手との出会いは、私の人生にとって一番の幸せだ。 El conocer a un gran atleta como Ichiro es para mí la mayor felicidad.

Rincón lingüístico-cultural para hispanohablantes

1. El comienzo y final de los Samuráis

A mediados del siglo VII (Época Nara) la capital de Japón se encontraba en Nara, y al haberse incrementado la población, hacía falta aumentar la producción agrícola explotando nuevos terrenos. Fue entonces cuando se estableció la ley: “quien cultive un terreno se lo puede quedar”. A pesar de que las tierras fuesen cultivadas por uno mismo, existía el peligro de que alguien más fuerte las robase, así que los propios cultivadores se armaron y crearon un ejército de defensa para protegerlas. Éste se dice que es el inicio de los samuráis. A partir del siglo X cada familia establece un “negocio familiar” hereditario. Entre ellos los que se dedicaban a luchar como trabajo se les comenzó a llamar *buke*. Las artes marciales (*bugei*) que se utilizaban en la lucha se transmitían de padres a hijos.

Desde la época Nara hasta la época Heian, los derechos políticos estaban acaparados por la Familia Imperial y los Nobles. Estas dos fuerzas entraron en conflicto por dichos derechos, y cada una de ellas emplearon grupos de samuráis para ser superiores. Al principio a aquellos samuráis que habían participado en la disputa comenzaron a participar en la política. Al final se les conocía como *heike* a aquellos que poseían los derechos políticos más poderosos.

Sin embargo, ya que los *heike* llevaron a cabo una política que no se distinguía de la Familia Imperial y los Nobles de Kioto, aquellos samuráis de las provincias que estaban descontentos se les opusieron. De entre ellos la familia más fuerte fue la de Genji, y un miembro, Minamoto no Yoritomo acabó destruyendo a los *heike*, y estableció el centro político en Kamakura (Prefectura de Kanagawa). Minamoto no Yoritomo decidió crear el Bakufu (lugar donde los samuráis ejercían la política), donde la política se llevaba a cabo con un trasfondo militar. Igualmente, hizo que la Familia Imperial le reconociera al Bakufu los derechos de todas las tierras cultivadas por los samuráis, y los derechos de la Familia Imperial quedaron relegados a un puro símbolo. Este gobierno militar de los samuráis continuaría durante unos setecientos años hasta que llegó la época Edo.

El samurái se dejó de considerar un oficio a finales del siglo XIX, cuando se dio la transición de la época Edo a la época Meiji. El gobierno Meiji llevó a cabo varias políticas para cambiar este oficio, como por ejemplo la ley que prohibía el llevar katanas (*haitourei*), lo que supuso el desempleo de los samuráis. Se eliminó igualmente el régimen de los feudos (*haihanchiken*), haciendo que desapareciesen los feudos de las provincias, creándose la distribución actual de prefecturas. De esta forma se perdió la relación de trabajo entre los samuráis y los dueños de los feudos. El Gobierno Meiji introdujo un sistema militar moderno, que hizo que la figura de los samuráis perdiera su sentido. Los desempleados samuráis buscaron trabajo de nuevo como militares o policías, pero no consiguieron desterrar su honor. Muchos de ellos continuaron un tiempo llevando el típico

peinado llamado *chonmage*, pero junto con la ley de prohibir las katanas se acabó proclamando una ley que obligaba a cortarse el pelo, negándoles su gusto por dicho peinado.

2. El inicio de los ninjas

El inicio de los ninjas se dice que se remonta a la época Heian. Eran contratados como defensa de las aldeas y fuerza militar para las batallas. Creaban grupos de ninjas en terrenos donde la calidad no era buena para los cultivos, o bien a las que no llegaba el control de los gobernantes. Vivían en las llamadas *ninja-yashiki*, y se dice que se entrenaban en el *ninjutsu*, que utilizaban en asesinatos y actividades como espías. Se puede confirmar en las fuentes escritas que había más de treinta escuelas de *ninjutsu*. A lo largo de los setecientos años en los que se produjeron muchos cambios en el poder político del gobierno militar de los samuráis, se puede confirmar en documentos que los asesinatos y tareas de espionaje de los ninjas tuvieron un papel muy importante. Al llegar la época Meiji, al igual que los samuráis, los ninjas perdieron su empleo, y tuvieron que buscar otra ocupación. Sin embargo, todas las proezas de estos “súper hombres” que utilizaban el *ninjutsu*, se plasmaron en novelas que cultivaron mucho éxito en la época Edo, continuando en la temática de las novelas del *ninja mono* en la época Meiji. Con el avance de las técnicas en el cine, se hacía desaparecer a los ninjas entre nubes de humo. Tras la Segunda Guerra Mundial el tema ninja llegaría hasta la televisión, manga y anime.

3. “Ninja Boom” mundial

En los años 60 se presentó en revistas americanas la historia y técnica de los ninjas, haciendo que el interés aumentase, creándose mucho cine y revistas con este tema. En 1967 un ninja apareció por primera vez en una película de 007, convirtiéndose en un tema de éxito en occidente. Desde los años 70 a los 80 en América se comenzó a practicar el *ninjutsu* como arte marcial, y se extendió el *ninja training*, inexistente en Japón. Aunque a los japoneses al ver las películas americanas les resulte un poco gracioso debido a las armas y técnicas inventadas que aparecen, se podría decir que como género sí que ha sido todo un éxito. No tan sólo en América, sino que se extendió el boom hasta Hong Kong o la India. Debido a este boom mundial la imagen de los ninjas se vio un poco alterada en el propio Japón.

4. El antes y después de la época samurái

Dentro de la Historia del Japón la cultura más antigua se dice que es la época Jomon, que comenzó hace 15.000 años. La vida se centraba en la caza y pesca, y fue el primer momento en que se hacían vasijas de barro. Después llegaría la época Yayoi, donde llegaría la técnica de la agricultura desde la Península Coreana y la China continental, quedando registros de que existió un pequeño país llamado Yamataikoku, gobernado por la Reina Himiko. En la sucesiva época Kofun, se unificó el país administrativamente en “Yamato”, con un sistema político centrado en la Familia Imperial.

Este sistema imperial continuaría en las sucesivas épocas: Asuka, Nara y Heian. En este momento el poder político se centraba en la Nobleza y en la Familia Imperial, pero por el enfrentamiento de estas dos fuerzas terminó trasladándose el poder militar a los samuráis, hasta conseguir acaparar el más alto poder en la época Kamakura. El poder militar continuaría en Kamakura, Muromachi, Azuchimomoyama y Edo, siendo en la última cuando la Familia Tokugawa de samuráis tendría el monopolio del poder durante más de 260 años. La Familia Tokugawa brindó una estabilidad en la administración, estableciendo varias políticas como el sistema de clases o el cierre del país al extranjero.

Al entrar en la época Meiji, se reabre Japón al extranjero, dejando entrar la cultura y los conocimientos occidentales, con lo que comenzaría el régimen político del Consejo de Ministros. El Emperador volvería a reconocerse con el título de la más alta autoridad, ocupando el lugar del Shogun en la época militar, pero al tomar como modelo la política occidental monárquica europea, el verdadero poder político residiría en el parlamento.

MARUGOTO GRAMÁTICA nivel intermedio B1-2

TÉRMINOS GRAMATICALES

Sustantivo (N)	T1, T2, T3, T4, T5, T7, T8, T9	(Verbo) ます	T7, T8
Adjetivo-I	T1, T2, T3, T4, T5, T6, T7, T8	(Verbo) ない	T2, T4, T5, T7, T8
Adjetivo-NA	T1, T2, T3, T4, T5, T6, T7, T8	(Verbo) た	T1, T2, T3, T7, T8
(Verbo) forma pasiva	T8	(Verbo) て	T4
(Verbo) forma potencial	T2, T8	(Verbo) ている	T4
(Verbo) forma diccionario	T3, T4, T5, T7, T8	(Frases) forma simple	T1, T4, T5, T8, T9
(Verbo) forma volitiva	T7	Expresión de cortesía	T6
(Verbo) forma simple	T1, T2, T3, T5, T6, T7	Lenguaje de respeto (lenguaje honorífico)	T8

PALABRAS Y EXPRESIONES

Índice alfabético japonés

あ	～あいだに	T4
	あきらめる	T6
	あんまり	T1, T6
い	意外に	T1
	痛める	T3
	いっしょうけんめい 一生懸命	T4, T9
	～一方(で)	T8
	イライラする	T8
	印象的	T7
う	～うちに	T4, T6
お	おくびょう 臆病な	T1
	おごる	T2
	思い出す	T1
	思わず	T7
か	回答する	T5
	確認する	T8
	数々の	T1
	がっかりする	T6
	～かどうか	T4
	～かな	T3
	必ず～とはかぎらない	T9
	がまん 我慢する	T3
	～からといって、～ない	T9
	～から見ると	T9

	かわりに	T4
	がんこ 頑固な	T1
	完成する	T5, T9
	完走する	T3
	感動的な	T7
	完ぺきに	T1
き	気軽に	T6
	き 効く	T3, T7
	期待する	T1
	きばつ 奇抜な	T1
	～気味	T3
く	配る	T9
	～ぐらい	T7
	～くらいなら	T3
	苦勞する	T1
け	けっこう	T1, T4
	けっきょく 結局	T6
	けんさく 検索する	T6
	減少する	T2
	げんそうてき 幻想的な	T7
こ	こうかい 後悔する	T4

	こうぶん 興奮する	T2
	超える	T7
	こ 焦がす	T6
	骨折する	T5
	異なる	T8
	～ことに	T2
	個性的な	T1
	混む	T1
	こんざつ 混雑する	T1
	こんなん 困難な	T2
さ	さすがに～(ない)	T6
	さまざまだ	T8
	騒ぐ	T8
し	～しかない	T2
	事前に	T1
	しっかり	T8
	自転する	T2
	～じゃない(ですか)	T9
	就職する	T9
	出演する	T4
	神経質な	T1
	信じる	T8
す	進む	T4
せ	成功する	T9
	～せいで	T5
	せっかく(～んだから)	T4
	せっかくだから	T4
	ぜひ	T4
そ	～そうになる	T6
	そのせいで	T5
	そんちょう 尊重される	T9
た	～対する	T1
	た 耐える	T8
	～だけでなく、～も	T2
	確か	T1
	確かに	T1
	たとえば、～とか	T4
	～たとおり	T7
	～たところ	T3
	～たほうがいい	T3
	～たほうがマシだ	T3
	だまる	T8
	～ため	T2
	～ためには	T4
	～たら	T3
	～だろう	T9

ち	近頃	T1
つ	つい	T3, T7
	伝える	T7
	伝える	T8
	～って	T1, T9
	～っていうか	T1
	～っていうより(は)	T1
	～って言っても	T6
	～(って)感じ	T7
	～(って)気がする	T7
	～ってことだ	T1
	つながる	T1
	～っぽい	T3
	つまり	T1
	～つもり	T3
	つらい	T3
て	出歩く	T4
	～であろう	T9
	～ていただいてもよろしいで しょうか	T6
	～ていただけないでしょうか	T6
	停電する	T6
	丁寧に	T1
	～ている間	T6
	～ている間に	T6
	～ている場合じゃない	T4
	～では	T9
	手配する	T2
	～てもらえない?	T6
	～てもらって(も)いい?	T6
と	～と	T1
	～という(ことだ)	T1
	～というか	T1
	～という気がする	T7
	～ということだ	T1, T6
	～というのは	T9
	～というより(は)	T1
	～といえは	T5
	～と言っても	T6
	どうどう 堂々と	T7
	～どおり	T7
	～と感じる	T7
	～どころか	T3
	～ところがある	T1
	とつぜん 突然	T2
	とても～(られ)ない	T8
	整える	T4
	～とのことだ	T5, T6

	～とはかぎらない	T9
	～とはかぎりません	T9
な	～ないこともない	T2
	～ないわけにはいかない	T2
	治る	T3
	なかなか	T1, T7
	～ながらも	T7
	～など	T3
	～(な)のに	T7
	慣れる	T1
	～なんか	T3, T4
	～なんて	T3
に	～において	T9
	～にかぎる	T4
	～に関する～	T5
	～に関して	T9
	～に対して	T5
	～に違いない	T2
	～について	T9
	～についての～	T5
	～にとって	T9
	～には	T4
	～にもかかわらず	T7
	～によって	T1, T8
	～によると	T5
ぬ	ぬす 盗まれる	T6
の	～(の)かわりに	T4
	～の立場では	T9
	～(の)は、～ことだ	T3
	～のはどう(ですか)	T2
	乗り換える	T1
は	配信する	T5
	～ばかり	T1
	はげ 励ます	T7
	はしゃぎ回る	T8
	はっきり	T4
	話しかけられる	T1
	華やかな	T7
	～はもちろん、～も	T5
	はやる	T5
	払う	T5
	腹が立つ	T2, T8
	反対に	T1
	反発する	T7
ひ	引き込まれる	T1、
	引き落とす	T6
ふ	増える	T9
	不快に	T8

	ふくざつ 複雑な	T5
	ふせ 防ぐ	T9
	ふ 踏まれる	T6
	ふる 震える	T7
	～ぶん	T6
へ	平気	T1
	閉店する	T5
	～べき	T4
	減らす	T3
	返金する	T6
	返品する	T6
ほ	～ほか	T2
	～ほど	T7
	～ほど～ない	T8
ま	全く	T1
	迷う	T4, T8
	まるで...みたいだ	T7
	まるで...ようだ	T7
み	～見込みだ	T5
	～みたいだ	T1, T2, T3, T7
	見とれる	T7
め	迷惑だ	T8
	目指す	T4
も	申し込む	T1, T4
	～ものだ	T7
や	やはり	T9
よ	酔う	T8
	要するに	T1
	～ようだ	T7
	～(よ)うとする	T7
	～(よ)うとしない	T7
	よそう 予想する	T1
	～より～ない	T8
	～より～ほうが～だ	T8
ら	～らしい	T5
り	りっぱ 立派な	T7, T9
	利用する	T5
る	～(ら)れる	T1
わ	若返る	T3
	～わけがない	T9
	～わけじゃない	T3
	～わけではない	T3, T9
	～わけない	T9
	わりと	T1

Autores: Michiko Akaboshi Michiko Owada Minako Takahashi
Satomi Tsujii Mariko Furuya Keiko Matsushita

Índice

alfabético: Minako Takahashi

Edición: Keiko Matsushita Patricia Portillo

Ilustración: © The Japan Foundation

Traducción: Daniel Ruiz Martínez Laura Rivas Campos
José Antonio Martínez-Oliva Puerta

MARUGOTO GRAMÁTICA B1-2

© 2018 The Japan Foundation, Madrid

The Japan Foundation, Madrid
Palacio de Cañete - 2a Planta
C/ Mayor 69, 28013 Madrid, ESPAÑA
TEL: +34 91 310 15 38
E-mail: nihongo@fundacionjapon.es
Website: <http://www.fundacionjapon.es>

Printed in Spain – Impreso en España

La reproducción total o parcial de esta obra sin el consentimiento expreso de los titulares del *Copyright* está prohibida al amparo de la legislación vigente.

ISBN: 978-84-09-03421-5

